

大阪府  
學校用

日本畧史

下

T1A1

26

(K139)

師範學校編輯

# 日本畧史

明治十年  
七月廿日御届

大隈第五

日本畧史下卷

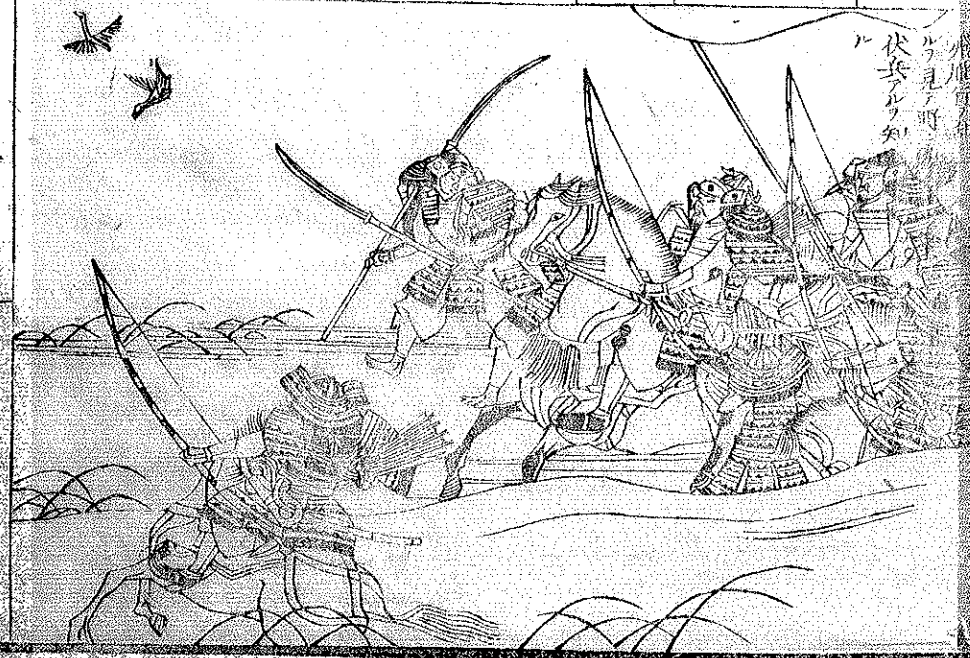
木村正辭 編

那珂通高 訂

第七十二代、後三條天皇ハ、後朱雀天皇ノ子ナリ、  
一條天皇以來、政外戚ニ歸シ、朝憲漸弛、  
天皇剛健嚴明ニシテ、大ニ紀綱ヲ張り、新置ノ莊園ヲ收メ、  
記錄所ヲ置キ、親民訟ヲ聽斷ス、又斗外ノ法ヲ定メ、  
所謂宣旨外、是ナリ、參議大江匡房、其ノ治ヲ稱シ、  
承和、延喜ノ政ニ比スベシト云ヘリ、延久四年、  
病ヲ以テ、位ヲ皇太子ニ譲リ、明年五月遂ニ崩

日本書紀  
 第七十三代  
 白河天皇ハ、後三條天皇ノ子ナリ、剛  
 斷果決、政宸衷ヨリ出ヅ、故ヲ以テ、相門手ヲ歛ム  
 頗、後三條天皇ハ、風アリ、然レドモ、常ニ土木ヲ喜  
 ビ、國用窘窮シ、財ヲ納ル、者ハ、國司ニ任ゼラル  
 、ニ至ル、在位十四年ニシテ、位ヲ皇太子ニ讓リ、  
 政ヲ院中ニ決シ、院別當ヲ置キテ、事大小ト無久  
 令スルニ、院宣ヲ以テス、是ヨリ、天下、院宣ヲ重ズ  
 ルコト、宣旨官符ニ倍レリ、大治四年、七月崩ズ、年

第七十四代、堀河天皇ハ、  
 白河天皇ノ子ナリ、○清  
 原武衡家衡、亂ヲ出羽ニ  
 作シ、金澤、柵ニ據ル、源義  
 家、攻メテコレヲ拔キ、武  
 衡家衡ヲ斬リ、事平ク、コ  
 レヲ後三年ノ戰ト云ス、  
 ○上皇、愛女ヲ喪ヒ、哀戚  
 シテ、薙髮シ、法皇ト稱ス、  
 仍政ヲ聽クコト、故ノ如



シ、天皇爲ス所アルコト能ハス、然レドモ、ビヲ政  
治ニ留メ、諸司ノ奏案ハ、夜必覆視シ、疑フベキモ  
ノアレバ、御批シテ、再議セシム、嘉承二年七月崩  
ズ、在位二十一年、年二十九

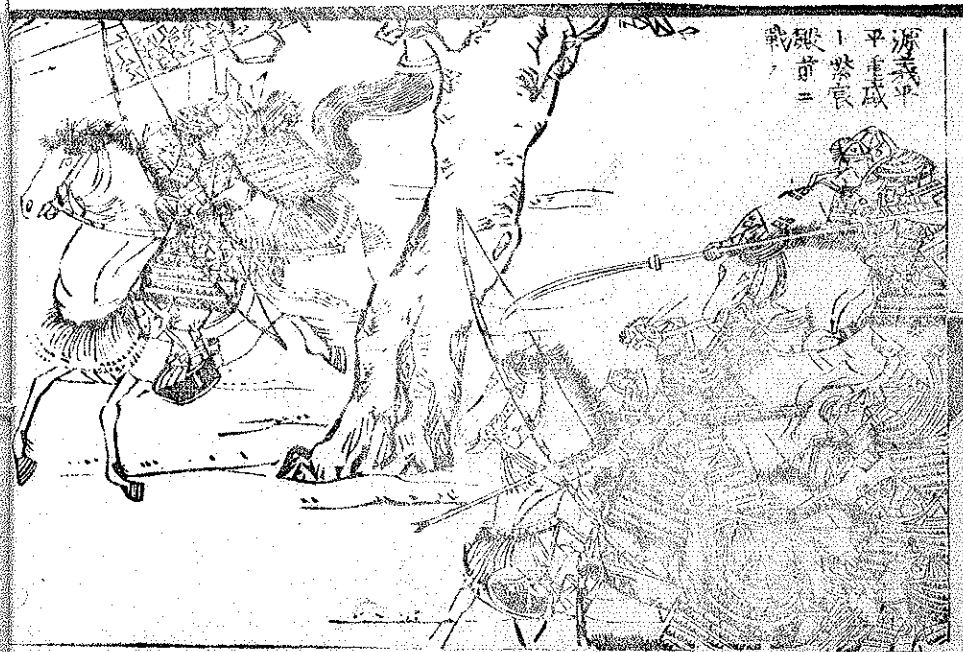
第七十五代、鳥羽天皇ハ、堀河天皇ノ子ナリ、天皇、  
五歳ニシテ、位ニ即久、白河法皇萬機ヲ聽決ス、○  
天皇在位十六年ニシテ、位ヲ皇太子ニ傳ヘ、保元元  
年、七月崩ズ、年五十四、○天皇容儀ヲ修スルコトヲ  
好ム、朝服ニ稜アリ、鳥帽ニ額アルコト、此ノ時ヨ  
リ始マル、又内ヲ好ミテ、嬖幸多ク、前後三女院ア  
リテ藤原得子、美福門院最寵セラハ、保元ノ亂、實ニ此  
ニ兆セリ、

第七十六代、崇徳天皇ハ、鳥羽天皇ノ子ナリ、天皇  
モ亦五歳ニシテ、位ニ即久、白河法皇政ヲ院中ニ  
聽ク、既ニシテ、法皇崩ズ、鳥羽上皇續ギテ、萬機ヲ  
理ム、亦薙髮シテ、法皇ト稱ス、○皇弟體仁親王ヲ  
立テ、皇太子トス、母ハ即得子ナリ、其ノ速ニ位  
ヲ得ンコトヲ欲シ、法皇ヲ勸メテ、皇太弟トシ、遂  
ニ、天皇ヲシテ、位ヲ讓ラシム、○天皇在位十八年、  
長寛二年八月、讃岐國ニ崩ズ、年四十六世ニ讃岐ノ

院ト稱ス、高倉天皇、治承元年、始メテ、謚ノ奉ル  
第七十七代、近衛天皇ハ、鳥羽天皇ノ子ナリ、即位  
ノ時年甫メテ三歳、鳥羽法皇、政ヲ院中ニ聽ク、世  
コレヲ、本院ト稱シ、上皇ヲ、新院ト云フ、○左大臣  
藤原賴長、寵ヲ法皇ニ得テ、其ノ兄忠通ト、隙アリ、  
忠通時ニ攝政タリ、天皇稍長シテ、忠通ヲ信ジ、賴  
長ヲ惡ム、然レドモ、法皇ヲ憚リ、意ノ如クスルコ  
トヲ得ズ、居常鬱々、遂ニ、積モリテ疾ヲナシ、久壽  
二年、七月崩ズ、在位十四年、年十七、

第七十八代、後白河天皇ハ、崇徳天皇ハ、同母弟ナ  
リ、近衛天皇崩ジ、テ嗣ナシ、上皇意ヘラク、若重祚  
スルニ非ズバ、重仁必立タント、重仁ハ、其ノ長子  
ナリ、長ニシテ、賢ナルヲ以テ、中外望ヲ屬ス、得子  
謂ハラク、上皇、近衛天皇ヲ呪詛スト、法皇コレヲ  
信ズ、因リテ忠通ト謀リ、天皇ヲ立ツ、上皇降バズ、  
保元元年、法皇崩ズ、上皇賴長ヲシテ、源爲義、平忠  
政等ヲ召シ、白河殿ニ會セシメ、將ニ以テ、兵ヲ舉  
グントス、天皇、源義朝、平清盛等ニ敕レテ、コレヲ  
伐タシメ、上皇ヲ讃岐ニ遷ス、コレヲ、保元ノ亂ト  
イフ、○天皇在位三年ニシテ、位ヲ皇太子ニ讓ル、





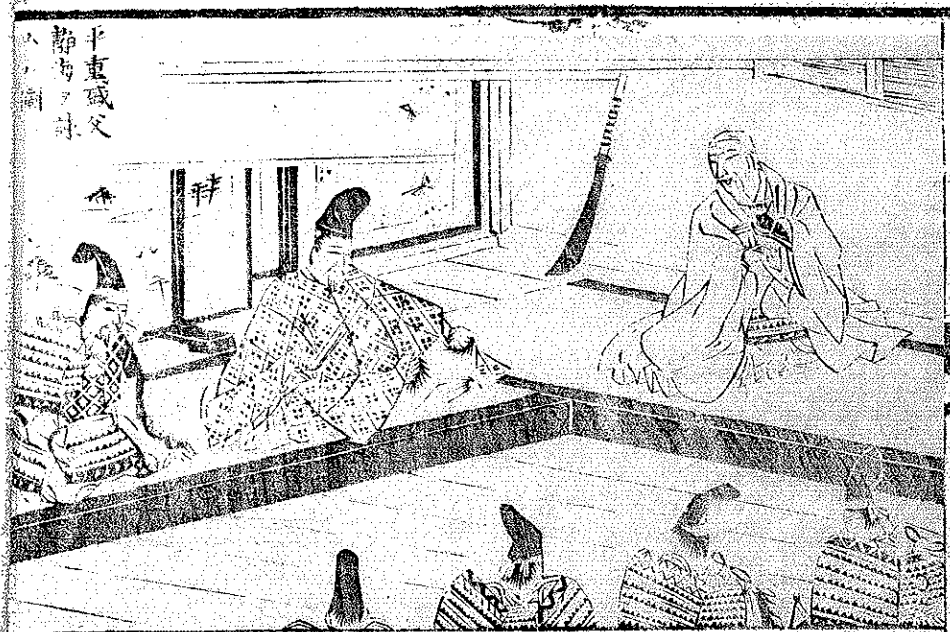
後五代ノ天皇皆幼冲  
 ルヲ以テ政ヲ院中ニ決  
 スルコト、三十餘年、建久  
 三年、三月崩ス、年六十六、  
 第七十九代、二條天皇ハ、  
 後白河天皇ノ子ナリ、即  
 位ノ時、年十六、上皇政ヲ  
 院中ニ聽ク、○平治元年、  
 藤原信賴反シ、源義朝、  
 兵ヲ以テ、夜三條殿ヲ燒

キ、上皇ヲ幽シテ、天皇ヲ黒戸御所ニ遷シ、自大臣  
 大將ト稱シ、官ヲ其ノ黨與ニ授ク、天皇乃平清盛  
 等ヲシテ、信賴ヲ誅セシム、義朝、尾張ニ走リテ、人  
 ニ殺サレ事遂ニ平ク、コレヲ平治ノ亂ト云フ  
 天皇在位七年ニシテ、位ヲ皇太子ニ譲リ、永萬元  
 年、七月崩ス、年二十三、

第八十代、六條天皇ハ、二條天皇ノ子ナリ、二歳ニ  
 シテ即位ス、後白河上皇政ヲ院中ニ決スルコト、  
 故ノ如シ、○仁安元年、天皇ノ叔父、憲仁親王、  
 立テ、皇太子トス、親王ノ母ハ、平清盛ノ妻ノ

妹ナリ、後白河上皇コレヲ嬖シ因リテ親王ヲ立ツ、時二年六歳ニレテ、天皇ハ、僅ニ三歳ナリ、朝野其ノ昭穆、序ヲ失スルコトヲ譏ル、明年、清盛太政大臣タリ、是ノ時平氏ノ族、朝官タル者、六十餘人、其ノ采邑、三十餘國ニ跨リ、朝政盡、清盛ニ決ス、○天皇在位三年、年五歳ニレテ、位ヲ皇太子ニ譲リ、新院ト稱ス、未冠セザルノ上皇ハ、古ヨリ、未コレ有ラズ、後安元二年、七月崩ズ、年十三、

第八十一代高倉天皇ハ後白河上皇ノ子ナリ、即位ノ時、年甫メテ八歳○上皇薙髮シテ、法皇ト稱ス、是ヨリ先、清盛病ニ因リテ、髮ヲ削リ、靜海ト號ス、世コレヲ太政入道ト云フ、第ヲ西八條ニ造リ、又別莊ヲ福原ニ興シ、勢ヲ恃ミテ、驕横ナリ、上皇積ミテ、平ナルコト能ハズ、是ニ至リテ、佛ニ歸ス○藤原成親、僧西光ト、平氏ヲ亡サシコトヲ謀リ、源、行綱ヲ引キテ、黨トス、法皇モ亦、其ノ議ニ與ル、行綱事遂ニ成ラザランコトヲ、懼レテ、密ニ謀ヲ清盛ニ告グ、清盛怒リテ、法皇ヲ幽セムトス、其ノ子貞盛泣キ且諫メテ、コレヲ止ム、因リテ、西光ヲ殺シ、成親等ヲ流シ、尋テ、人ヲレテ、成親ヲ殺サシ



ム、既ニシテ、重盛薨ズ、朝  
野コレヲ惜ム、數月清盛  
兵ヲ率ヰテ、福原ヨリ至  
ル、京都騷擾ス、遂ニ關白  
基房ヲ貶シ、太政大臣師  
長ヲ流シ、法皇ヲ鳥羽殿  
ニ幽ス、○天皇、在位十二  
年ニシテ、位ヲ皇太子ニ  
譲リ、新院ト稱ス、天皇、性  
仁孝ニシテ、喜怒色ニ形

レズ、法皇ノ幽セララル、ニ及ビテ、憂鬱疾ヲ致シ、  
養和元年、正月崩ズ、年二十一、

第八十二代、安徳天皇ハ、高倉天皇ノ子ナリ、三歳  
ニシテ即位ス、○源頼政、以仁王ヲ勸メテ、潛ニ令  
テ諸國ニ下シ、兵ヲ起シテ、平氏ヲ亡サレコトヲ  
謀ル、事成ラズシテ、自殺シ、王モ亦、流矢ニ中リテ  
薨ズ、王ハ、後白川法王ノ第二子ナリ、○源頼朝、以  
仁王ノ令ヲ奉シ、兵ヲ伊豆ニ起シテ、相模ノ鎌倉  
ニ據ル、諸國ノ源氏、頼朝ニ應ズル者、多クシテ、源  
義仲、信濃ヨリ起リ、平氏ト越中ニ戦ヒ、大ニコレ



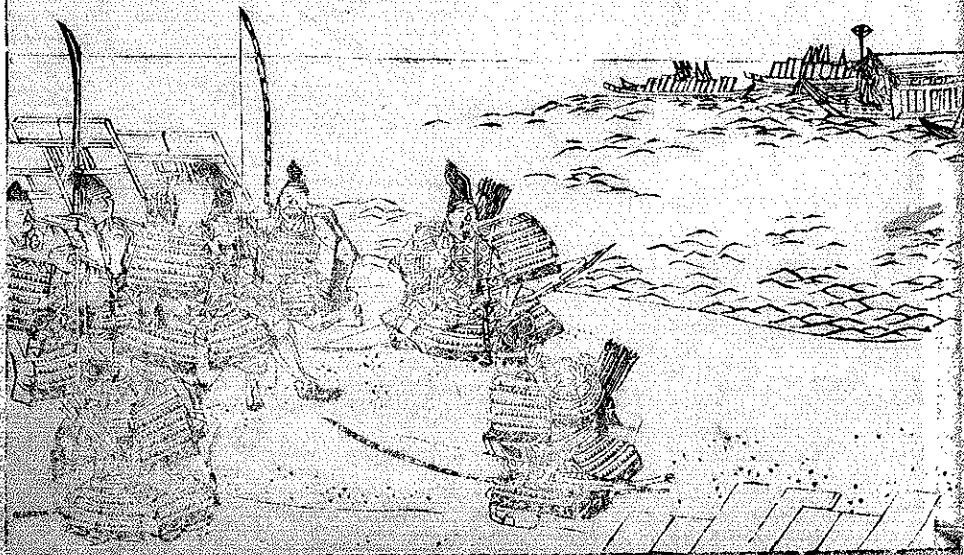
ニ勝リ、賴朝モ亦平氏ノ軍ヲ駿河ニ破ル、會清盛  
病ヲ得テ薨ズ、義仲長驅シテ、近江ニ入り、延曆寺  
ニ據ル、法皇、夜宮ヲ出デ、義仲ノ營ニ幸ス、清盛  
ノ子宗盛、乃一族ト、天皇ヲ奉ジ、神器ヲ擁シテ、筑  
前ニ奔ル、既ニシテ、讃岐ニ遷リ、行宮ヲ屋島ニ造  
ル、尋デ、長門ノ壇浦ニ崩ズ、在位五年、年八歳、實ニ  
壽永四年三月ナリ、後文治三年、謚ヲ上ル、

第八十三代、後鳥羽天皇ハ、高倉天皇ノ子ナリ、平  
氏、安德天皇ヲ奉ジ、筑前ニ奔ルニ當リテ、法皇、旨  
ヲ宗盛ニ喻シテ、車駕ヲ還サシム、宗盛勅ヲ奉セ

ズ、是ニ於テ、法皇乃公卿ト議シ、天皇ヲシテ、踐阼  
セシム、時ニ、年五歳ナリ、○法皇、義仲ニ敕シテ平  
氏ヲ討タシム、義仲糧乏シキヲ以テ、遷延發セス、  
京畿ヲ抄略ス、法皇、其ノ暴横ヲ惡ミ、潛ニ、コレヲ  
討タシコトヲ謀ル、義仲、遂ニ兵ヲ舉グテ反シ、天  
皇、及法皇ヲ幽ス、既ニシテ、義仲、法皇ニ逼リテ、賴  
朝ヲ討スルノ院宜ヲ請フ、賴朝遙ニ義仲ノ暴横  
ヲ聞キ、弟範賴、義經ヲシテ、コレヲ討タシム、義仲  
敗走シテ、近江ニ死ス、是ノ時ニ當リテ、平氏既ニ  
攝津ノ一谷ニ據ル、範賴、義經討チテ、コレヲ讃岐

ニ走ラハ尋テ、長門ノ壇浦ニ戦ヒ、大ニコレヲ敗  
ル是ニ於テ、平氏盡亡ビ、神劍モ亦從ヒテ海ニ沈  
メリ、○義經、既ニ平氏ヲ滅シ、鏡璽ヲ得テ、京都ニ  
入ル、初、天皇ノ即位スル、藤原兼實、劍璽ヲキヲ以  
テ、コレヲ諫ム、法皇聽カズ、是ニ於テ、藤原經房等  
鏡璽ヲ鳥羽ニ迎ヘテ、コレヲ溫明殿ニ安ス、○賴  
朝、北條時政ヲ遣ハシテ、京都ヲ護セシメ、又奏シ  
テ、諸國ニ守護ヲ置キ、莊園ニ地頭ヲ置キ、親其ノ  
總地頭タラシコトヲ請フ、法皇コレヲ許ス、總地  
頭ハ、即、總追捕使ナリ、是ヨリ天下ノ權悉賴朝ニ  
歸ス、尋テ、征夷大將軍ニ  
任ゼラル、○天皇、在位十  
三年ニシテ、位ヲ皇太子  
ニ讓ル、上皇ト稱ス、踐阼  
ヨリ、此ニ至ルマデ、十五  
年後、政ヲ院中ニ聽クコ  
ト、二十餘年、常ニ王室ノ  
陵替ヲ憤リ、コレヲ恢復  
アルノ志アリ、院ノ西面  
ノ土ヲ置キ、武事ヲ親シ

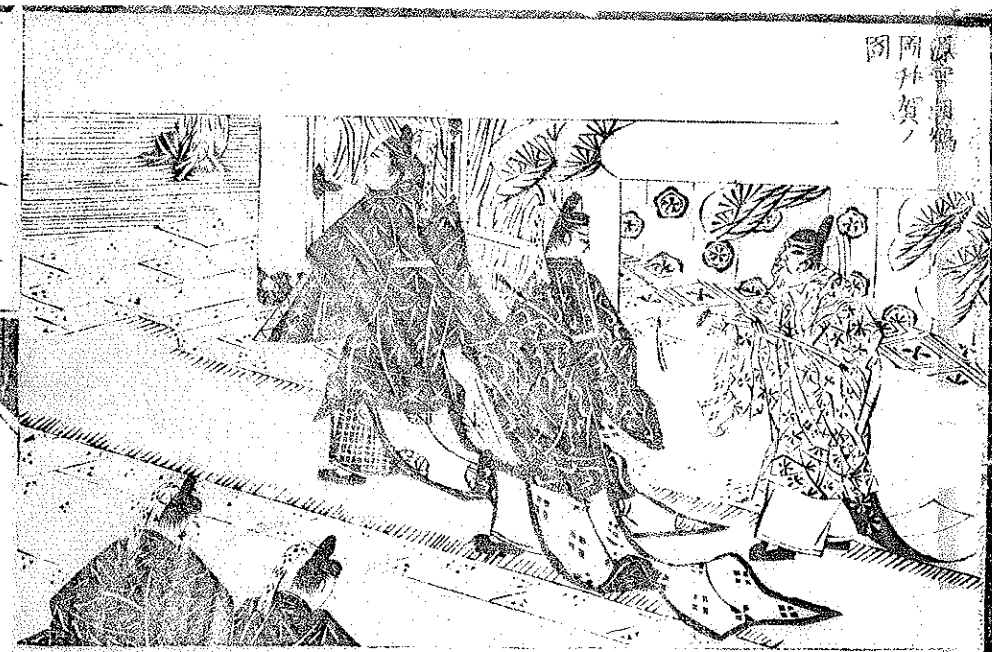
ハ島ノ戦



自刀劍ヲ鍛フルニ至ル、承久ノ役起ルニ及ビテ、  
北條義時、天皇ヲ隱岐ニ遷ス、巖穴ニ依リテ、宮ヲ  
爲リ茅茨松椽、僅ニ風雨ヲ蔽フノミ、タクノ如キ  
コト、十九年ニシテ、延應元年二月崩ズ、年六十  
第、八十四代、土御門天皇ハ、後鳥羽天皇ノ子ナリ  
即位、年甫メテ四歳、上皇政ヲ院中ニ聽ク、○源  
賴朝薨ズ、其ノ子賴家ヲ以テ、諸國守護地頭ヲ總  
督セシメ、征夷大將軍ニ任ズ、北條時政、外祖タル  
ヲ以テ、鎌倉ノ政ヲ執ル、後、賴家疾アリテ、其ノ子  
一幡、尚幼ナリ、賴家ノ母政子、賴家ノ終ニ起クベ

カラガルコトヲ慮リ、時政ト議シ、關東二十八國  
ノ守護職ヲ割キテ、賴家ノ弟千幡ニ與ヘントス、  
一幡ノ外祖、比企能員、コレヲ不可トシ、其ノ女ニ  
因リ、以テ賴家ニ告ク、賴家密ニ能員ヲ卧内ニ召  
シ、共ニ事ヲ謀ル、政子其ノ謀ヲ知リテ、時政ニ告  
グ、時政乃能員ヲ給キテ、コレヲ殺ス、能員ノ子宗  
員、一幡ヲ擁シテ、兵ヲ舉グ、時政攻メテコレヲ殲  
シ、遂ニ賴家ヲ伊豆ニ幽シ、後、人ヲシテコレヲ殺  
サシム、是ニ於テ、時政、千幡ヲ奉ジテ、命ヲ朝廷ニ  
請フ、因リテ、名ヲ實朝ト賜ヒ、征夷大將軍ニ任ズ、

時二年十二ナリ、既ニシテ、時政其ノ女孀、源朝雅  
 ラ以テ、實朝ニ易ヘンコトヲ謀ル、實朝乃、時政ヲ  
 幽シ、朝雅ヲ殺ス、時政ノ子義時、代リテ執權トナ  
 ル、○天皇在位十二年ニシテ、位ヲ、皇大弟守成順德  
 天皇ニ傳フ、天皇性溫醇ニシテ、失徳アラズ、後鳥羽  
 天皇深ク守成ヲ愛シ、亟ニ讓位セシム、是ヨリ天  
 皇間居レテ、歌詠自娛ム、後鳥羽天皇ハ、北條氏ヲ  
 討ツ、天皇屢コレヲ諫メタルヲ以テ、播遷ノ禍ニ  
 及バズ、然レドモ、獨、京都ニ止マルニ忍ビス、攝政  
 道家ヲレテ、旨ヲ鎌倉ニ諭サシム、義時、乃天皇ヲ



土佐ニ徙ス、寛喜三年十  
 月、阿波ニ崩ズ、年三十七  
 第ハ十五代順德天皇ハ  
 土御門天皇ノ弟ナリ、土  
 御門天皇ヲ上皇ト稱シ  
 後鳥羽天皇ヲ本院ト云  
 フ、本院仍政ヲ院中ニ聽  
 ク、○將軍實朝ヲ、右大臣  
 ニ任ズ、實朝并賀ノ禮ヲ  
 鶴岡ニ行フ時、賴家

子公曉、暗中ヨリ出デ、實朝ヲ戕シ大呼シテ曰  
ク父ノ讎ヲ報ズト乃逃レテ、三浦義村ニ依ル。義  
村給ギテコレヲ殺シ、首ヲ義時ニ送ル。是ニ於テ  
義時奏シ請ヒテ、藤原賴經ヲ鎌倉ノ主トス、左大  
臣道家ノ子ナリ、年甫メテ二歳、政子代リテ府事  
ヲ聽決ス。時人コレヲ尼將軍ト稱ス。○天皇在位  
十一年ニレテ、位ヲ皇太子ニ讓ル承久ノ役、其ノ  
事ニ與ルヲ以テ佐渡ニ遷サレ、仁治三年、九月崩  
ズ。年四十六、後建久元年、謚ヲ上ル、

第八十六代、仲恭天皇ハ、順德天皇ノ子ナリ、四歳

ニレテ即位ス、順德天皇ヲ新院ト稱ス、因リテ土  
御門天皇ス、中院ト稱シ、以テ本院ニ別ツ、本院仍  
政ヲ院中ニ聽久、初本院、源氏ノ兵權ヲ握リテ、朝  
廷ヲ制スルコトヲ惡ム、實朝、害ニ遭フニ及ビテ、  
思ヘラク、威柄復スベシト而ルニ鎌倉ノ權勢、舊  
ニ仍ル。是ニ於テ、意益平ナラス、怨ヲ積ミテ意ヲ  
決シ、義時ノ官爵ヲ削リ、天下ニ詔シテコレヲ討  
タシム。義時、乃弟時房子、泰時等ヲシテ兵ヲ率テ  
テ西犯セシム、本院、諸將ヲ分テコレヲ拒ギテ克  
タス。泰時、遂ニ京都ヲ陷ル、本院、懼レテ、義時ノ官



爵ヲ復シ、追討ノ院宣ヲ止ム。泰時、天皇ヲ廢シ、後堀河天皇ヲ立テ、本院ヲ、隱岐ニ遷ス。中院ハ土佐、新院ハ佐渡、雅成、賴仁兩親王ハ、但馬備前ニ徙サル。○天皇、在位、僅ニ七十餘日、文曆元年五月、九條院ニ崩ズ、年十七、世ニ、九條廢帝ト稱ス。後明治三年、謚ヲ上ル。

第八十七代、後堀河天皇ハ、高倉天皇ノ孫ニシテ、後高倉太上天皇守貞親王ノ子ナリ、即位ノ時、甫メテ十歳。○義時、府ヲ京都ヲ、南北六波羅ニ置キ、泰時、時房ヲシテ、コレヲ鎮セシム。既ニシテ、義時卒ス。

泰時執權タリ、詔レテ、賴經ヲ征夷大將軍ニ任ズ。貞永元年、泰時、新令五十條ヲ頒ツ、貞永式目、是ナリ。○天皇、在位十一年ニシテ、位ヲ、皇太子ニ讓ル。文曆元年、八月崩ズ、年二十三。

第八十八代、四條天皇ハ、後堀河天皇ノ子ナリ、即位ノ時、生レテ二歳。○在位十年ニシテ、仁治三年、正月崩ズ、年十二。

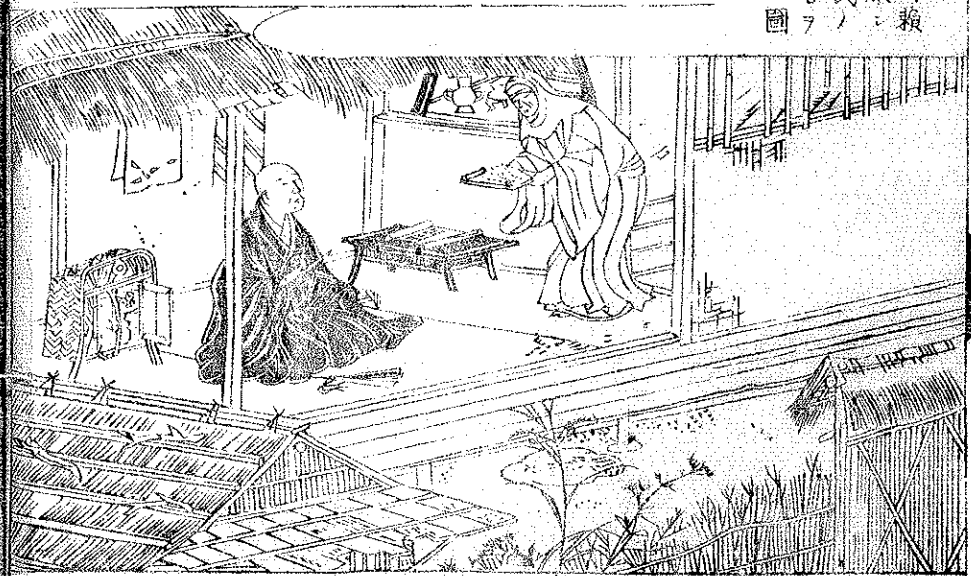
第八十九代、後嵯峨天皇ハ、土御門天皇ノ子ナリ、初、土御門天皇ノ、南遷スルニ當リテ、天皇生レテ二歳、外家源通方ニ依リテ居リ。四條天皇崩スル。

ニ及ビテ、嗣無シ、泰時、土御門天皇ノ承久ノ事ニ  
與ラザルヲ以テ、群議ヲ排シテ、天皇ヲ立シ、旣ニ  
シテ、泰時卒ス、孫經時執權タリ、賴經ヲ廢シテ、其  
ノ子、賴嗣ヲ立テンコトヲ請フ、因リテ賴嗣ヲ征  
夷大將軍ニ任ズ、賴嗣甫メテ六歳○天皇、在位四  
年ニシテ、位ヲ皇太子ニ讓ル、文永九年、二月崩ズ、  
年五十三、○天皇、位ヲ遜ルノ後、二皇子、相踵ギテ、  
踐阼ス、仍リテ、政ヲ院中ニ聽クコト、二十六年、其  
ノ將ニ崩ゼントスルニ及ビテ、世、付ヲ、龜山天皇  
ノ後ニ傳ヘテ、後深草天皇ノ子孫ニハ、長講堂ノ

封地ヲ、與ヘンコトヲ遺詔シ、陰ニ、朝權ヲ回復ス  
ルニ意アリ、此條時宗、皇統、互ニ立ツノ議ヲ建テ、  
朝廷ノ衰替、極レリ、

第九、十代、後深草天皇ハ、後嵯峨天皇ノ子ナリ、四  
歳ニシテ即位ス、上皇、政ヲ院中ニ聽久○鎌倉執  
權、北條經時卒ス、弟時賴職ヲ襲グ、時賴ノ從父、光  
時、前將軍、賴經ニ説キテ、時賴ヲ圖ラシメ、己、コレ  
ニ代ラントシテ、事露ル、時賴、乃賴經ヲ京都ニ逐  
フ、三浦光村、コレヲ憤リ、其ノ兄、泰村ト、北條氏ヲ  
滅シ、以テ賴經ヲ迎ヘンコトヲ謀ル、事成ラスシ

平時賴  
微服  
ヲ氏ノ  
疾苦ヲ  
訪フ圖



テ、舉族自殺ス、賴經密ニ、  
兵ヲ京都ニ集ム、時賴コ  
レヲ知リ、又將軍賴嗣ヲ  
廢レテ、上皇ノ皇子、宗尊  
親王ヲ迎ヘテ、鎌倉ノ主  
トス、親王尋テ、征夷大將  
軍ニ任ゼラル、○時賴疾  
ニ嬰リ、難髪シテ、最明寺  
ニ老ス、其ノ子時宗尚幼  
ナリ、故ニ族長時ヲレテ、

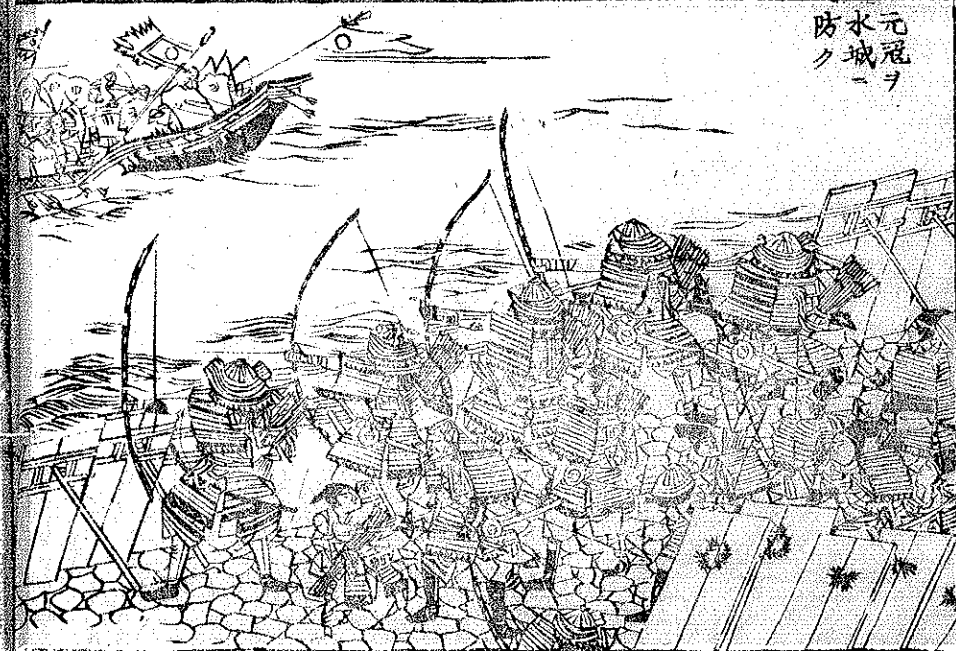
代リテ執權タラシメ、時賴大事ヲ聽決ス○天皇  
在位十三年ニシテ、位ヲ皇太子ニ讓ル、嘉元二年、  
七月崩ズ、年六十二、

第九十一代龜山天皇ハ、後深草天皇ノ同母弟ナ  
リ○時賴卒ス、時賴善ク舊制ニ遵ヒ、府事大ニ治  
マル、職ヲ解キテ後、微服シテ四方ニ遊ビ、民ノ疾  
苦ヲ問フ、又青砥藤綱ヲ舉ゲテ、引付衆トス、藤綱  
廉ニシテ剛權貴ヲ憚ラズ、一時風俗頓ニ革マル、  
世時賴ヲ以テ善ク人ヲ得タリトス、○長時罷ム  
時宗執權タリ、大將軍宗尊親王ヲ發シテ、京都

日本書紀 下卷  
送り還ス、其ノ子惟康王、コレニ代ル、時ニ生レテ  
三歳ナリ、○此ノ時、元使對馬ニ來ル、コレヲ逐ヒ  
還ス、後、元使趙良弼、書ヲ携ヘテ、又太宰府ニ至リ、  
必其ノ報ヲ得ンコトヲ求ム、朝廷、答書ヲ草シテ  
以テ、時宗ニ示ス、時宗奏レテ、コレヲ止メ、良弼ヲ  
逐ヒ還ス、○天皇、在位十五年ニレテ、位ヲ皇太子  
ニ讓ル、後、政ヲ院中ニ聽クコト、十餘年、嘉元三年、  
九月崩ズ、年五十七、

第九十二代、後宇多天皇ハ、龜山天皇ノ子ナリ、ハ  
歳ニシテ、即位ス、龜山上皇、政ヲ院中ニ聽ク、○元  
我ガ、屢、其ノ使ヲ逐ヒ還シ、ヲ憤リ、兵三萬ヲ以  
テ、對馬、壹岐ヲ犯シ、進ミテ、太宰府ニ寇ス、鎮兵、擊  
チテコレヲ却ク、既ニシテ、元使來リテ、和ヲ講ズ  
時宗、コレヲ鎌倉ニ斬リ、益、兵備ヲ嚴ニシ、探題ヲ  
鎮西ニ置キ、北條實政ヲ以テ、コレニ任ズ、元將又  
來リ、部將ヲシテ、太宰府ニ至ラシメ、猶和ヲ講ズ  
ルヲ以テ、言トス、時宗又、コレヲ博多ニ斬ル、是ニ  
於テ、元大舉シテ、入寇ス、我ガ兵、コレヲ拒キテ、利  
アラズ、益、兵ヲ諸道ニ徵ス、龜山上皇、深ク以テ憂  
ム、シテ、手書ヲ、伊勢大神宮ニ奉ジテ、身ヲ以テ、コレ

元寇ヲ  
水城ニ  
防ク



ニ代ラシコトヲ祈ル元  
兵入りテ、太宰府ヲ犯ス  
鎮兵又撃テ、コレヲ破  
ル元兵退キテ、肥前ノ鷹  
島ニ保ス、會、颶風大ニ起  
リ、其ノ戰艦盡覆ヘル、我  
ガ兵掩撃シテ、コレヲ殲  
ス、是ヲ弘安ノ役ト云ス  
弘安ハ當時ノ年號ナリ  
○時宗卒ス、其ノ子貞時

嗣キテ執權タリ、○天皇、在位十三年ニシテ、位ヲ  
皇太子ニ讓ル、元亨四年、六月崩ス、年五十八  
第九十三代、伏見天皇ハ、後深草天皇ノ子ナリ、  
貞時將軍惟康親王ヲ廢シテ、コレヲ京都ニ送り  
還ス、久明親王代リテ、鎌倉ノ主トナリ、征夷大將  
軍ニ仕ス、久明ハ、天皇ノ弟ナリ、○盜夜禁内ニ入  
ル衛兵コレヲ捕ヘントス、盜遂ニ自殺ス、初後嵯  
峨天皇ノ約ニ因リ、龜山上皇ノ裔、世々大統ヲ承メ  
ヘク、シテ、後深草天皇、時宗ニ請ヒ、天皇ヲ立ツ、是  
ニ至リテ、時宗皆、盜ヲ以テ、龜山上皇ノ命スル所



ナルヲ疑フ上皇懼レテ自誓書ヲ作り貞時ニ賜  
フ事乃止ムコトヲ得タリ○天皇在位十一年ニ  
シテ位ヲ皇太子ニ讓ル文保元年九月崩ス年五  
十三

第九十四代後伏見天皇ハ伏見天皇ノ子ナリ十  
一歳ニシテ即位ス伏見上皇政ヲ院中ニ聽久○  
天皇在位三年ニシテ位ヲ皇太子ニ讓ル上皇ト  
稱ス是ニ於テ後深草上皇ヲ本院ト稱シ龜山上  
皇ヲ中院ト稱シ後宇多上皇ヲ新院ト稱ス伏見  
上皇ヲ併セテ五上皇アリ上皇ノ多キコト古ヨ

リ未アラサル所ナリ○初伏見上皇時宗ノカニ  
藉リテ立コトヲ得タリ因リテ竊ニ貞時ニ告ケ  
テ曰ク中院常ニ承久ノ事ニ切齒ス其ノ後ヲ立  
ツルハ卿ノ利ニ非ルナリト貞時乃天皇ヲ立ツ  
後宇多上皇悅ハス責ムルニ後嵯峨天皇ノ遺詔  
ニ違フヲ以テス貞時乃後深草上皇龜山上皇ト  
其ノ兩統十年毎ニ更立スルノ約ヲ定メ天皇ニ  
逼リテ位ヲ讓ラシム元弘ノ亂實ニ此ニ兆ス○  
天皇延元元年四月崩ス年四十九  
第九十五代後二條天皇ハ後宇多天皇ノ子ナリ

○貞時鎌倉執權ヲ族師時ニ譲リ將軍久明親王  
ヲ廢シテ其ノ子守邦王ヲ以テコレニ代フ○天  
皇在位六年ニシテ延慶元年八月崩ス年二十四  
第九十六代花園天皇ハ伏見天皇ノ子ナリ十二  
歳ニシテ即位ス伏見上皇政ヲ院中ニ聽ク○師  
時及貞時卒ス族師時鎌倉執權タリ尋テ亦卒ス  
族基時コレニ代リ以テ高時ニ傳フ高時ハ貞時  
ノ子ナリ時二年十四○天皇在位十年ニシテ位  
ヲ皇太子ニ讓ル貞和四年十一月崩ス年五十二  
第九十七代後醍醐天皇ハ俊守弟天皇ノ子ナリ

○天皇意ヲ政事ニ留メ記錄所ヲ置キ親民ノ訟  
ヲ聽ク又常ニ高時ノ權ヲ專ニスルヲ怒リ藤原  
資朝藤原俊基ト密ニコレヲ誅セムコトヲ謀ル  
資朝等武人ノ用非ルニ足ル者ヲ引キテ衣冠ヲ  
脫シ酒ヲ縱ニシ以テ其ノ歡心ヲ結ズ名ツケテ  
無禮講トイフ既ニシテ事露レ資朝等捕ハラル  
天皇誓書ヲ高時ニ賜ヒテ事釋ク高時乃俊基ヲ  
赦シテ資朝ヲ流ス天皇高時ヲ圖ルノ意益切ナ  
リ會皇太子邦良薨ズ天皇皇子護良親王ノ英姿  
有ルヲ愛シ立テ以テ邦良ニ代ヘンコトヲ欲

旨ヲ高時ニ喻ス、高時固ク貞時ノ約ヲ執リテ、  
詔ヲ奉ゼズ、後伏見上皇ノ皇子、量仁親王ヲ立シ、  
天皇乃護良親王ヲレテ、髮ヲ削リ、尊雲ト稱セシ  
メ、延暦寺ノ座主トシ、以テ僧徒ノ心ヲ收ム、其ノ  
大塔ニ居ルヲ以テ、稱シテ、大塔宮ト云フ、親王密  
ニ天皇ノ謀ヲ賛ク、天皇、僧圓觀等ヲレテ、高時ヲ、  
禁内ニ呪セシム、高時、コレヲ聞キテ、兵ヲ京都ニ  
遣ハシ、天皇ヲ遷シテ、護良親王ヲ竄セシトス、親  
王謀シテ、其ノ謀ヲ知リ、夜使ヲ馳セテ、コレヲ天  
皇ニ奏ス、天皇、神器ヲ奉シテ、潛ニ官ヲ出テ、笠置

山ニ幸ス、親王、僧徒ヲシテ、東兵ヲ、近江ノ辛崎ニ  
拒ガシム、既ニシテ、衆潰ニ、親王モ亦南都ニ奔ル、  
天皇笠置山ニ在リ、詔ヲ四方ニ下シテ、王事ニ勤  
セシメ、楠正成ヲ召シテ、委スルニ、興復ノ事ヲ以  
テ、正成、慷慨詔ヲ奉ジ、歸リテ、赤坂ニ城ク、高時  
天皇宮ヲ出ヅト聞キテ、量仁親王ヲ奉シテ、位ニ  
即カシム、是ヲ光嚴院ト云フ、兵ヲ遣ハシテ、笠置  
山ヲ犯サシメ、天皇ヲ平等院ニ奉ジテ、神器ヲ、新  
主ニ傳ヘンコトヲ請フ、天皇許サズ、後六波羅ニ  
幸ス、又コレヲ請ス、因リテ、新ニ神器ヲ造リテ、新

主ニ授ク、高時遂ニ天皇ヲ隱岐ニ徙シテ、諸皇子ヲ諸國ニ遷ス、兒島高德車駕ヲ奪ハンコトヲ謀リ、能ハズ、初正成ノ赤坂ニ城ク、版築未成ラズシテ、笠置山既ニ陷ル、東兵勢ニ乘ジ來リ攻メラ、拔クコトヲ得ズ、正成糧盡クルヲ以テ逃レテ、金剛



山ニ入ル是ニ至リテ又兵ヲ起シ、赤坂ヲ復シ、兵ヲ率井テ、和泉、河内ヲ徇ヘ、進ミテ、天王寺ニ陣ス、護良親王モ亦、兵ヲ吉野ニ起ス、新田義貞、赤松則村等モ亦、兵ヲ舉グ、天皇、遙ニコレヲ聞キテ、千波港ヨリ、小舟ニ御レテ、伯耆ニ幸ス、名和長年、族ヲ舉ゲテ、天皇ヲ舟上ニ奉ズ、近國ノ兵、來リ攻ム、長年、擊テコレヲ走ラス、則村、及足利高氏等、京都ヲ復ス、義貞ハ、鎌倉ヲ拔キテ、高時ヲ誅ス、高時少クシテ、荒縱ナリ、政ヲ、長崎高資ニ委ヌ、高資貪リテ私多ク、因リテ民心ヲ失ヒ、北條氏遂ニセズ、

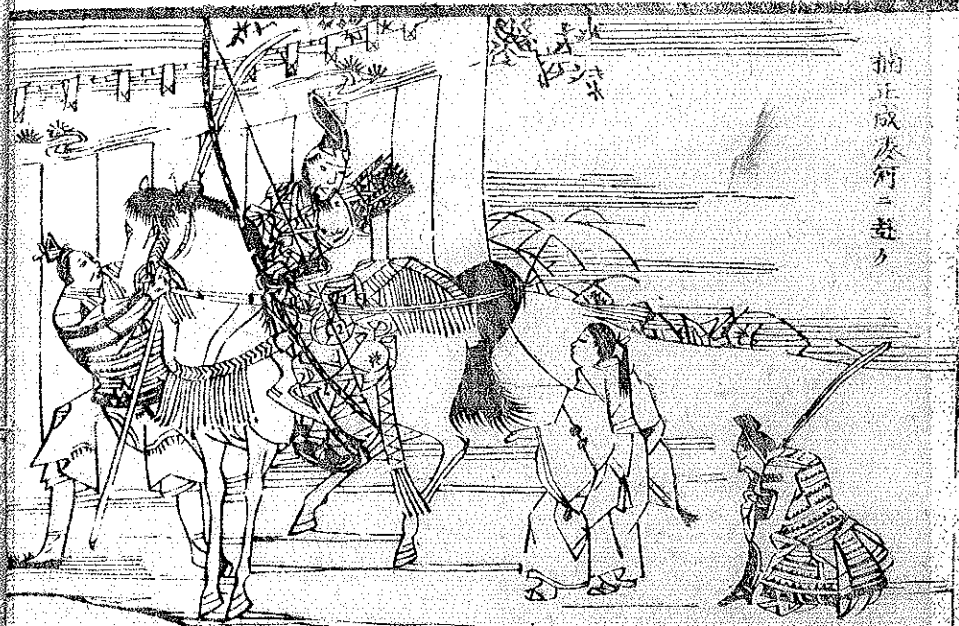
是ニ於テ車駕宮ニ還リ、詔レテ新主ヲ廢シ、其ノ  
官爵ヲ受ケタル者ノ貶シ、關白ヲ置クコトヲ罷  
シ、初、高氏ノ京都ヲ復スル、護良親王ノ威名ヲ忌  
ミ、コレヲ除カンコトヲ圖ル、會、親王ノ候人、僧良  
忠ノ部卒、罪ヲ犯ス、高氏捕ヘテコレヲ梟ス、良忠  
ハ殿、去印ト稱ス、親王怒リテ、高氏ヲ討セシコト  
ヲ請フ、天皇許サズ、親王ヲ拜シテ、征夷大將軍ト  
シ、高氏ニ、御名ノ一字ヲ賜ヒテ、尊氏ト改メシム、  
決斷所ヲ置キテ、軍功ノ賞ヲ議ス、將士未、邑ヲ受  
ケズレテ、嬖人地ヲ賜フ者多ク、又安藝周防ノ租

賦ヲ以テ、大内ヲ營ムノ費ニ供シ、始メテ楮幣ヲ  
造リ、漸、宴遊ヲ事トス、藤原、藤房、コレヲ諫ムレド  
モ、聽カズ、乃去リテ、僧トナル、○恒良親王ヲ立テ  
、皇太子トス、内侍、廉子ノ、生メル所ナリ、廉子、常  
ニ、護良親王ノ、大功アルヲ以テ、太子ニ、利アラザ  
ランコトヲ恐ル、故ニ、尊氏ト與ニ、親王ヲ讒ス、因  
リテ、コレヲ鎌倉ニ流ス、是ヨリ先、皇子、成良親王、  
出デ、鎌倉ニ鎮タリ、尊氏ノ弟、直義、コレヲ輔ク、  
是ニ至リ、直義乃、護良親王ヲ土窟ニ幽ス、尋テ、北  
條時行、餘黨ヲ聚メテ、亂ヲ作ス、時行ハ、高時ノ子



ナリ、進ミテ、鎌倉ヲ攻ム、直義コレヲ拒ギテ克タズ、成良親王ヲ奉ジテ、西ニ走リ、人ヲシテ、護良親王ヲ殺サシム、天皇、時行亂ヲ作スト聞キテ、尊氏ヲ、征東將軍トシ、撃チテ、コレヲ破ラシム、尊氏功ニ誇リ、鎌倉ニ據リテ、自、征夷大將軍ト稱シ、義貞ヲ、除カシコトヲ謀リ、上書シテ、其ノ罪ヲ訴フ、義貞モ亦、尊氏ノ、罪狀ヲ陳ス、天皇乃尊氏ノ官爵ヲ削リ、義貞ヲシテ、追討セシム、尊氏兵ヲ出ダシテ、コレヲ路ニ拒グ、義貞連戦シテ、皆捷チ、進ミテ、箱根ニ至ル、義貞ノ弟義助、尊氏ノ兵ト竹下ニ戦ヒテ、利アラズ、諸將叛ク者多シ、義貞乃兵ヲ引キテ還ル、尊氏勢ニ乘レ、入リテ、關ヲ犯ス、天皇、又神器ヲ奉レテ、二法皇ト共ニ、比叡山ニ幸ス會、源顯家、陸奥ノ兵ヲ率井、來リ援フ、義貞與ニ、尊氏ヲ、京都ニ破ル、尊氏、西ニ走リテ、少貳賴尚ニ賴ル、菊地武敏、コレヲ計ナテ、克タズ、既ニシテ、尊氏後伏見上皇ノ、宣旨ナリト稱シ、大舉シテ、東ニ上リ、自、舟師ヲ督シ、直義ヲシテ、陸軍ヲ率ル、福山城ヲ攻メシム、是ノ時ニ當リテ、義貞、赤松則村ヲ、播磨ノ、白旗城ニ攻メテ、下スコト能ハズ、福山城、陥ルト聞キ

拍正成湊河ニ遊ク



テ退キテ攝津ニ陣入正  
成ニ詔シテ義貞ヲ援ハ  
シム尊氏ノ兵水陸ヨリ  
並進ム正成湊川ニ戦ヒ  
テコレニ死シ義貞敗レ  
テ還ル天皇復神器ヲ奉  
ジテ比叡山ニ幸ス尊氏  
遂ニ京都ニ入ル名和長  
年モ亦コレニ死ス藤原  
師基北國ノ兵ヲ率井來

リ援フニ及ビテ官軍復振フ尊氏乃後伏見土皇  
ノ皇子豐仁親王ヲ奉シテ帝ト稱セシム光明院  
是ナリ遂ニ兵ヲ遣ハンテ糧道ヲ絶タシム官軍  
大ニ困ム既ニシテ尊氏佯リテ降ヲ乞フ大皇コ  
レヲ許シ義貞ヲシテ皇太子恒良及尊良親王ヲ  
奉シテ北陸道ヲ經略セシメテ車駕京都ニ還ル  
是ニ於テ尊氏天皇ヲ花山院ニ幽シ迫リテ神器  
ヲ天皇ニ傳ヘンコトヲ請フ天皇授クル新造  
ノ器ヲ以テシ又潛ニ逃レテ吉野ニ幸ス正成ノ  
子正行其ノ族ヲ率井來リテ行宮ヲ護ル因リテ

義貞ニ詔シテ、興復ヲ圖ラシム、是ノ時ニ當リテ、  
義貞、義助、皇太子ヲ奉シテ、越前ノ金崎城ニ據ル、  
其ノ國人、瓜生保、義助ノ子、義治ヲ將トシテ、兵ヲ  
杣山ニ起ス、尊氏ノ族高經、金崎城ヲ攻メ、拔ク  
コ、能ハズ、保等出デ、金崎城ヲ援ヒ、利アラズ  
シテ、コレニ死ジ、城中食盡ク、義貞、義助、潛ニ城ヲ  
踰テ、杣山ニ赴キ、援兵ヲ招徠ス、會、城陷リテ、皇太  
子執ヘラル、義貞進ミテ、越前府城ヲ拔キ、高經ヲ、  
足羽城ニ攻ム、兵勢大ニ振フ、尊氏乃、皇太子及、成  
良親王ヲ弑ス、既ニシテ、義貞、藤島城ヲ攻ム、克タ

ズレテコレニ死ス、○天皇、在位二十一年ニシテ、

位ヲ義良親王

後村上  
天皇

ニ讓リ、延元四年八月、吉野

ノ行宮ニ崩ス、年五十二、天皇終ニ臨ミテ、未尊氏  
ヲ滅スコト能ハザルヲ以テ、恨トシ、遺詔シテ、悵  
復ヲ圖ラシメ、劍ヲ按レテ崩ス

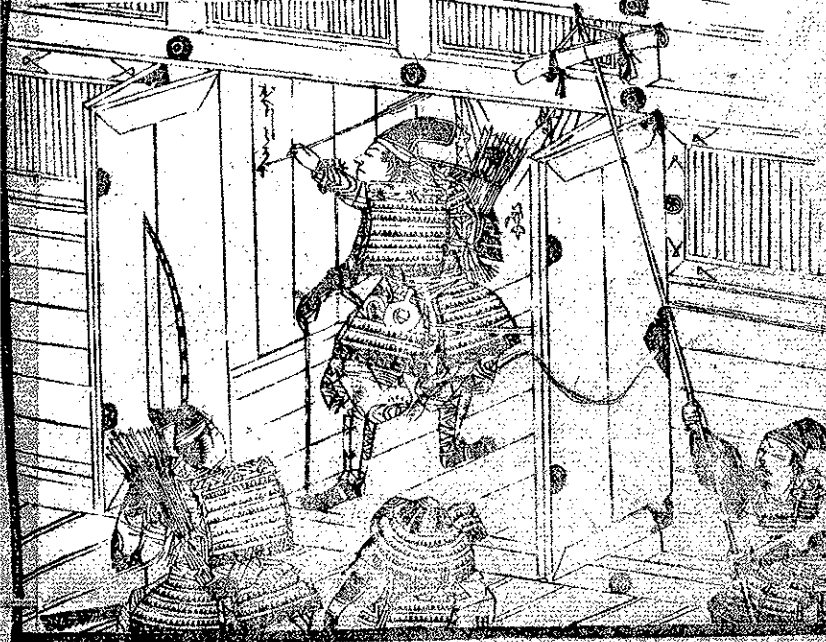
第九十八代、後村上天皇ハ、後醍醐天皇ノ子ナリ、  
初、後醍醐天皇、源顯家ヲレテ、天皇ノ奉ジ、以テ陸  
奥ヲ鎮セシム、天皇、顯家ト兵ヲ率井テ西上シ、尊  
氏ノ軍ヲ破ルコト數ナリ、後又由デ、伊勢ヨリ  
海ヲ航シテ、陸奥ニ赴カントス、颶ニ遇ヒテ果シ

ズ、是ニ至リテ、吉野ノ行宮ニ即位ス。○是ノ時ニ  
當リテ、征東將軍宗良親王、遠江ニ在リ、征西大將  
軍懷良親王、筑紫ニ在リ、源顯信、新田義宗、及土居  
得能、菊地等ノ諸族、東西ノ國郡ニ據リ、並ニ恢復  
ヲ圖ル。○義助ヲ刑部卿トシ、四國ノ軍事ヲ總督  
セシム、是ヨリ先、義貞ノ死スル、義助越前府城ニ  
據リテ、義故ヲ糾合シ、足利高經ヲ足羽城ニ撃チ  
テコレヲ走ラス、既ニシテ、京都ノ援軍至ル、高經  
ノ兵、復振ノ義助大ニ敗レ、遂ニ吉野ニ詣ル、會土  
居得能氏等、奏シテ將帥ヲ請フ、因リテ、敕シテ義

助ヲ遣ハスナリ、義助伊豫ニ至リ、病ヲ以テ卒シ、  
諸城皆陷ル、○源親房、常陸ノ小田城ニ據リ、高師  
冬ト戰ヒテ、コレヲ破ル、會小田治久、城ヲ以テ叛  
シ、師冬ニ降ル、親房退キテ、關城ニ保シ、書ヲ結城  
親朝ニ與ヘテ、援ヲ請フ、親朝辭スルニ、兵寡キヲ  
以テシ、遂ニ賊ニ降ル、親房守ルコト、能ハズシテ  
歸ル、○楠正行、兵ヲ出ダシテ、京都ヲ收復センコ  
トヲ謀リ、敵將細川顯氏、山名時氏ト戰ヒテ、コレ  
ヲ破ル、尊氏高師直、及師泰ヲシテ、兵八萬ヲ率非  
テ來リ撃タシム、正行弟正時ト、行宮ニ詣リ、天皇

ヲ拜辭シ、出デ、四條畷  
ニ戰ヒ、コレニ死ス、師直  
遂ニ行宮ヲ犯ス、天皇穴  
生ニ幸ス、正行ノ弟正儀、  
師泰ノ兵ヲ石河ニ拒グ、  
○北方光明院位ヲ從子  
興仁ニ讓ル、是ヲ崇光院  
トス、初、尊氏、光明院ヲ擁  
立ス、征夷大將軍タルニ、  
及ビテ、直義モ亦副將軍

捕正行歌ヲ如意輪  
堂ノ壁ニ懸スル圖



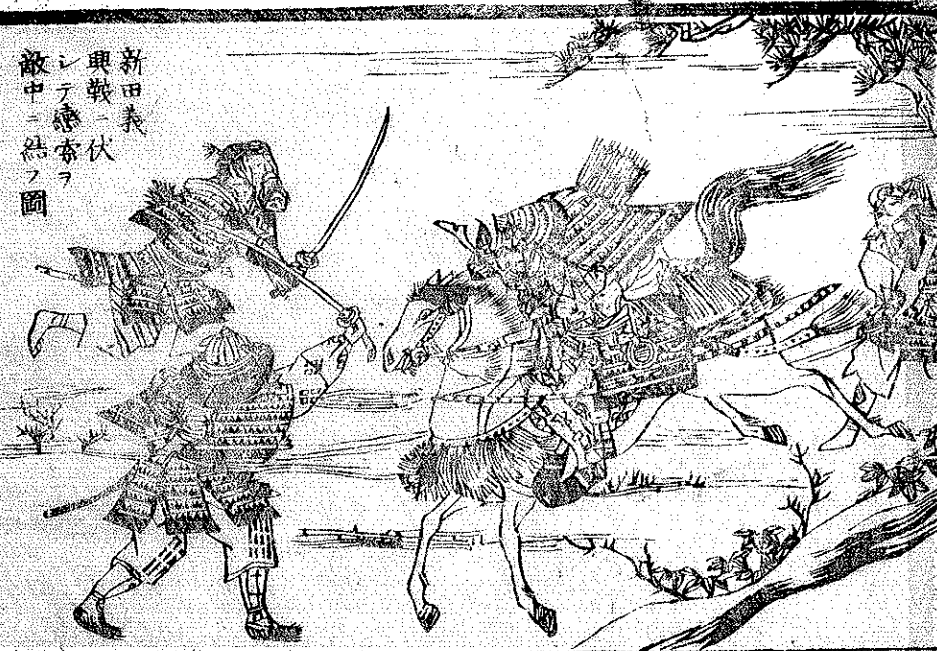
タリ政ヲ執ル、ト數年擁一時ニ振ノ因リ、尊  
氏ト並稱シテ兩御所ト云フ師直師泰ノ寵ヲ持  
ミテ專横ナルヲ惡ミコレヲ除カンコトヲ謀ル  
直義子無シ嘗テ尊氏ノ庶長子直冬ヲ養ヒテ子  
トセリ是ニ至リテ中國探題トシテ外掾ニ供ヒ  
ントス、既ニシテ事起ハ、師直乃師泰ヲ石川ヲ  
召還シ兵數萬ヲ以テ幕府ヲ圍ミ、直義ヲ斥ケ  
コトヲ請フ、尊氏コレヲ許シテ、直義ヲ罷メ義詮  
ヲ鎌倉ヨリ召シテ、直義ニ代ヘ政ヲ執ラシメ、基  
氏ヲ以テ鎌倉ニ鎮タラシメ、義詮基氏共ニ首成



ノ子アリ、直因リテ中國ノ將士ニ命シ、直冬ヲ  
撃ス、シム直冬肥後ニ奔リテ兵ヲ舉グ、師直、尊氏  
ニ勸メ親征セシメ、ンヨトヲ欲レテ直義ヲ憚リ、  
ユレヲ殺シテ、後ニ發セ、ンヨトヲ圖ハ、直義走リ  
テ大和ニ匿レ、上書シテ歸順セ、トス、天皇其ノ  
降ヲ納メ、詔シテ尊氏ヲ討タシム、石堂義房挑井  
直常等素師直ト惡シ、因リテ直義ニ附ク、直義直  
常ト、京都ヲ夾撃ス、義詮敗レテ西ニ奔リ、尊氏師  
直等一兵ヲ合セテ還ル、直義又撃チテコレヲ破  
リ、遂ニ尊氏ト和ス、師直、師泰出テ降リ、遁レ

テ殺サハ、直義乃尊氏ト京都ニ歸リ、義詮ノ罷メ  
テ復自政ヲ執ル、義房直常等ヲ恃ミテ横恣ナリ、  
仁木賴章、細川賴春コレヲ疾メ引キテ、國ニ還  
義房直常モ亦自安ゼズ、直義ヲ奉レテ、越前ニ還  
ル、尋テ尊氏ト近江ニ戦ヒ、克タスセテ、鎌倉ニ奔  
ル、尊氏コレヲ追撃セ、ンヨトヲ欲シテ、官軍ノ虛  
ニ乘シ、京都ヲ襲ハンコトヲ恐レ、伴リテ降ヲ請  
フ、天皇モ亦伴リテ、ユレヲ許シ、詔シテ直義ヲ討  
タシム、尊氏乃義詮ヲ留メテ、京都ヲ守ラシメ、親  
兵ヲ率カテ、東ニ赴キ、直義ヲ破リテ、ユレヲ降シ

遂ニ鎌倉ニ樂殺ス、○尊氏東ニ赴クニ及ヒテ義  
 詮奏シテ車駕京都ニ還ラントヲ請フ、是ニ於  
 テ義詮、崇光院ヲ廢レテ、正平ノ號ヲ奉ニ、後光嚴  
 崇光兩院ヲ上皇ト稱ス、天皇乃由良信阿、兒島禹  
 德、テテ密旨ヲ奉シ、新田氏ノ兵ヲ發シテ、尊氏  
 ヲ鎌倉ニ伐タレム、車駕行宮ヲ發シ、男山ニ至ル、  
 楠正儀ハ河内ヨリ來リ、源顯能ハ伊勢ヨリ會シ  
 兵ヲ率ヒテ京都ヲ攻メ、義詮ヲ近江ニ走ラシメ、光  
 明院及ニ上皇ヲ男山ノ行宮ニ迎ヘ、遂ニコレヲ  
 據ル、義詮近江ヨリ出テ、東山ニ據ル、官軍利ア



新田義  
 興戰一伏  
 レテ總奮ヲ  
 敵中ニ結フ圖

ラズンテ退ク、義詮、京都  
 ヨリ進ミテ男山ヲ圍ム、  
 官軍糧盡キテ、叛ク者ア  
 リ、天皇乃甲ヲ擲馬ニ御  
 シ、圍ヲ衝キテ出ツ、越前  
 後ヨリ來リ逼ル、藤原隆  
 資等、コレニ死ス、僅ニ賀  
 名生ノ行宮ニ還ルコト  
 ヲ得タリ、是ノ時ニ當リ  
 テ、新田義宗、義興等、尊氏

ヲ武藏ニ破リ、基氏ヲ鎌倉ニ伐チテ、コレヲ走ラ  
ス、既ニシテ、軍破レ、宗良親王ハ、信濃ニ走リ、義宗  
ハ、越後ニ走ル、高德來リ密旨ヲ傳フルニ及ビテ、  
義宗等、又兵ヲ率井テ、東北ヨリシ、土居得能氏ハ、  
西南ヨリシ、共ニ入リ援ハントス、男山守ヲ失フ  
ト聞キテ皆途ヨリ還ル、是ニ於テ、義詮、光嚴院ノ  
皇子、彌仁親王ヲ立ツ、即後光嚴院ナリ、○山名時  
氏、足利直冬、歸順ス、正儀ヲシテ、時氏ヲ助ケテ、京  
都ヲ攻メレム、義詮、新主ヲ奉シテ、近江ニ奔ル、既  
ニシテ、尊氏西ニ歸リ、義詮ト、兵ヲ合セ、京都ニ入  
ル、詔シテ直冬ヲ總追捕使トシ、再京都ヲ攻メレ  
メテ、コレニ克ツ、後、又敗レテ還ル、○光嚴光明、崇  
光三上皇ヲ京都ニ還ス、○尊氏死シ、義詮嗣グ、是  
ノ時、新田義興、武藏ニ在リ、基氏ノ將、畠山國清、人  
ヲシテ、コレヲ誘殺セシム、肥後ノ人、菊地武光、懷  
良親王ヲ奉シテ、少貳賴尚ト戰ヒ、コレヲ筑後河  
破ル、武光ノ父ヲ、武時ト云フ、勤王ナルコト數  
年、其ノ子、武重、父ニ嗣ギテ、屢、賴尚及、大友氏時等  
ト戰フ、武重卒シテ、弟嗣グ、即武光ナリ、○畠山國  
清、關東ノ兵二十萬ヲ舉ゲ、西上シテ、義詮ト合シ、

天野ノ行宮ヲ犯ス。是ニ於テ、車駕觀心寺ニ幸ス。  
陸良親王、及シテ、賀名生ノ行宮ヲ焚ク。陸良ハ護  
良親王ノ子ナリ。前、關白藤原師基ノシテ、討ナ  
コレヲ破ラシム。○細川清氏、歸順ス。詔シテ、師基、  
正儀ヲシテ、清氏ヲ助ケ、京都ヲ攻メシム。義詮、新  
主ヲ奉ジテ、近江ニ走リ、赤松氏範ヲシテ、水路ヨ  
リ、直ニ行宮ヲ犯サシム。師基等コレヲ聞キ、軍ヲ  
引キテ還ル。義詮復京都ニ入ル。後義詮死ス。子義  
満嗣グ。細川頼之ヲ以テ、管領トス。○天皇在位ニ  
十一年ニシテ、正平二十三年三月、住吉殿ニ崩ズ。

年四十一、天皇幼ニシテ、東藩ヲ鎮メ、入リテ、大統  
ヲ續ギ、恆ニ、恢復ヲ以テ心トシ、親艱危ヲ踏ム。其  
ノ際、東征北伐、率<sup>ネ</sup>虛日無<sup>レ</sup>シ。

第九十九代、後龜山天皇ハ、後村上天皇ノ子ナリ。  
○北方、後光嚴院位ヲ、皇子緒仁ニ讓ル。是後圓融  
院ナリ。○細川氏春來リ犯ス。天皇、コレヲ吉野ニ  
避ク。足利義滿、年既ニ長シテ、頼之ノ言ヲ聽カズ。  
稍、人心ヲ失フ。基氏ノ子氏滿、鎌倉ニ在リ、潛ニ、異  
志ヲ蓄ヘテ、事覺ル。義滿書ヲ以テ、其ノ執事上杉  
憲春ヲ讓<sup>リ</sup>、氏滿ヲ諫メテ死ス。○細川頼之、

伊豫ヲ犯ス、初義滿、諸將ヲ役シテ、大ニ第ヲ室町ニ營ミ、漸々驕奢ヲ事トス、賴之、コレヲ諫ムレドモ、聽カズ、互ニ嫌隙アリ、近臣從ヒテ、コレヲ讒ス、義滿乃、賴之ノ職ヲ罷メテ、國ニ就カシム、後、其ノ功ヲ思ヒ、南海ヲ總管セシム、是ニ至リテ、伊豫ヲ犯ス。○北方、後圓融院、位ヲ皇子幹仁ニ讓ル、是後、小松天皇ナリ、義滿、大内義弘、六角滿高ヲシテ來リ和ヲ請ハシメテ、曰ク、車駕還リ、神器ヲ授ケバ、兩統更立スルコト、故事ノ如クセント、詔シテコレヲ許シ、車駕、行宮ヲ發ス、群臣戎服シテ扈從シ、京都ニ入リテ、大覺寺ニ御ス、義滿、降禮ヲ用非シコトヲ欲ス、天皇許サズ、父子ノ禮ヲ以テ、神器ヲ後小松天皇ニ授ク。○天皇、在位二十四年ナリ、後應永三十一年、四月崩ズ、年七十八。○延元二年、足利尊氏、光明院ヲ奉ジテヨリ、北方五帝、五十六年ニシテ、兩統、始メテ一ニ歸セリ。

北方ノ帝、光嚴院ハ、後伏見天皇ノ子ナリ、初、後醍醐天皇ノ太子タリ、天皇、笠置山ニ幸スルニ及ビテ、花園上皇ノ詔ヲ以テ、踐阼ス、在位一年ニシテ、コレヲ遜リ、薙髮シテ、盡侍從

ヲ屏ク、獨僧順覺ト四方ニ雲遊ス時人、コレヲ知ル者トシ、後丹波ノ山國ニ居リ、貞治三年、七月崩ズ、年五十二。光明院ハ光嚴院ノ同母弟ナリ、光嚴院位ヲ去ルニ及ビテ、足利尊氏ノ奉スル所トナリ、神器ヲ、後醍醐天皇ニ受ク、天皇吉野ニ幸スルニ及ビテ位ヲ太子興仁ニ讓ル、在位十二年、後難繼レテ、諸寺ニ居リ、康暦二年、六月崩ズ、年六十。○崇光院ハ、光嚴院ノ子ナリ、在位三年ニシテ、足利義詮ニ廢セラレ、新神器ヲ、後村上天皇ニ奉ズ、

應永五年、正月崩ズ、年六十五。○後光嚴院ハ、崇光院ノ同母弟ナリ、初、足利尊氏京都ニ王無キヲ以テ、廣義門院ニ請ヒテ、帝ヲ立ラシトス、群臣神器傳ハラズ、又命ヲ受クル所無キヲ以テ、コレヲ難ズ、尊氏聽カズ、遂ニ踐阼セシム、後尊氏薨ズ、義詮ヲ以テ、征夷大將軍トス、義詮薨ズ、義滿ヲ以テ、征夷大將軍トス、帝、在位二十年ニシテ、位ヲ皇子緒仁ニ讓リ、應安七年、正月崩ズ、年三十七。○後圓融院ハ、後光嚴院ノ子ナリ、在位十一年ニシテ、明德



四年、四月崩ズ、年三

十六、

第百代後小松天皇ハ、後

圓融院ノ子ナリ、六歳ニ

シテ、太政官廳ニ踐阼ス、

時ニ後龜山天皇ハ弘和

二年ナリ、○義滿奏シテ、

大將軍ヲ子義持ニ譲リ、

自太政大臣トナラムコ

トヲ請フ、朝議コレヲ難

金閣ノ圖



シト人、然レドモ、其ノ怒ニ觸レンコトヲ恐レ、遂

ニコレヲ許ス、既ニシテ、官ヲ辭シ、髮ヲ削リテ道

義ト云フ、金閣ヲ北山ニ起シテコレニ居リ、北山

殿ト稱ス、又別ニ一殿ヲ禁内ニ造リ、朝スル毎ニ

就キテ、安ヲ取ル、小御所ト稱ス、○大内義弘、亂ヲ

作シ、周防長門ノ兵ヲ擧ゲテ、和泉ノ界城ニ據ル、

道義軍ヲ男山ニ出ダシ、畠山其國細川勝元等ヲ

シテ、討チテ、コレヲ平ゲレム、初、今川貞世、筑紫ノ

鎮ハ、義弘、引キテ以テ、黨トセントス、貞世、聽カズ、

義弘、慚懼シテ、反リテコレヲ道義ニ讓リ、己代リ

日本書紀 卷一  
テ探題トナル、兵力日ニ強ク、是ノ時、鎌倉管領滿  
兼父氏滿ニ嗣ギテ立チ、自將軍ト稱シ、弟ヲ御所  
ト云フ、道義使ヲシテコレヲ誚メ、服セバ遂  
ニ異圖アリ、義弘、潛ニ謀ヲ通ジ、東西ヨリ、京都ヲ  
夾撃セントス、道義謀シテコレヲ知り、滿兼ヲ討  
タントス、上杉朝宗、百方和ヲ講ズ、是ニ至リテ、義  
弘終ニ敗ル、○道義好ヲ明國ニ通ズ、明主允收、封  
ジテ日本國王トス、道義コレヲ受ク、世以テ醜ト  
ナス、○道義薨ズ、敕レテ大上皇ノ尊號ヲ贈ル、其  
ノ子義持、辭シテ受ケズ、道義政ヲ執ルコト、四十

一年、儀仗乘輿ニ擬シ、驕僭尊氏ニ過ギタリ、○天  
皇在位三十年ニシテ、位ヲ躬仁親王稱光ニ讓ル、  
永享五年、十月崩ズ、年五十七、

第百一代、稱光天皇ハ、後小松天皇ノ子ナリ、即位  
ノ時、年十二、後小松上皇政ヲ院中ニ聽ク、○南朝  
ノ遺臣、後龜山天皇ノ後ヲ立ツル、約ノ如クセン  
コトヲ請フ、許サズ、是ニ於テ南朝ノ遺孽所在、兵  
ヲ起ス、尋テ皆平グ、○鎌倉管領滿兼卒シ、子持氏  
嗣グ、其ノ執事、上杉氏憲ヲ罷メテ、代フルニ、上杉  
憲基ヲ以テス、憲基ハ、扇谷ニ居リ、氏憲ハ山内ニ

居リ、稱シテ兩上杉ト云フ、持氏、素氏憲ト隙アリ、  
因リテ其ノ權ヲ奪フ、氏憲乃、持氏ノ弟持仲ヲ奉  
ジテ、亂ヲ作シ、持氏ヲ攻ム、持氏駿河ニ走ル、義持  
關東ノ諸將ヲシテ、持氏ヲ援ク、鎌倉ヲ復セシメ  
テ、持仲及氏憲ヲ誅ス、義持ノ弟義嗣、氏憲ト謀ヲ  
通シテ、將ニ幕府ヲ襲ハレトス、事顯ル、兵ヲ遣ハ  
シ、捕ヘテコレヲ殺ス、既ニレテ、義持大將軍ヲ辭  
シ、薙髮シテ、道詮トイフ、其ノ子義量、職ヲ襲グ、義  
量尋テ薨ス、義持再事ヲ行フ、義持モ亦薨ス、其ノ  
弟義圓、青蓮院ノ僧正タリ、管領畠山滿家、コレヲ

迎フ、義圓名ヲ義宣ト改ム、後又義教ト改ム、○天  
皇、在位十六年ニレテ、正長元年七月崩ズ、年二十  
八

第百二代、後花園天皇ハ、後伏見天皇五世ノ孫ニ

レテ、北方崇光院ノ曾孫ナリ、父ヲ、貞成親王後崇光院

太上天皇ト云フ、稱光天皇、崩ジテ嗣無シ、後小松上皇

議シテ、天皇ヲ立ツ、時ニ年十歳、後小松上皇政ヲ

院中ニ聽ク、初、崇光院、南朝ニ因ハル、後光嚴院、弟

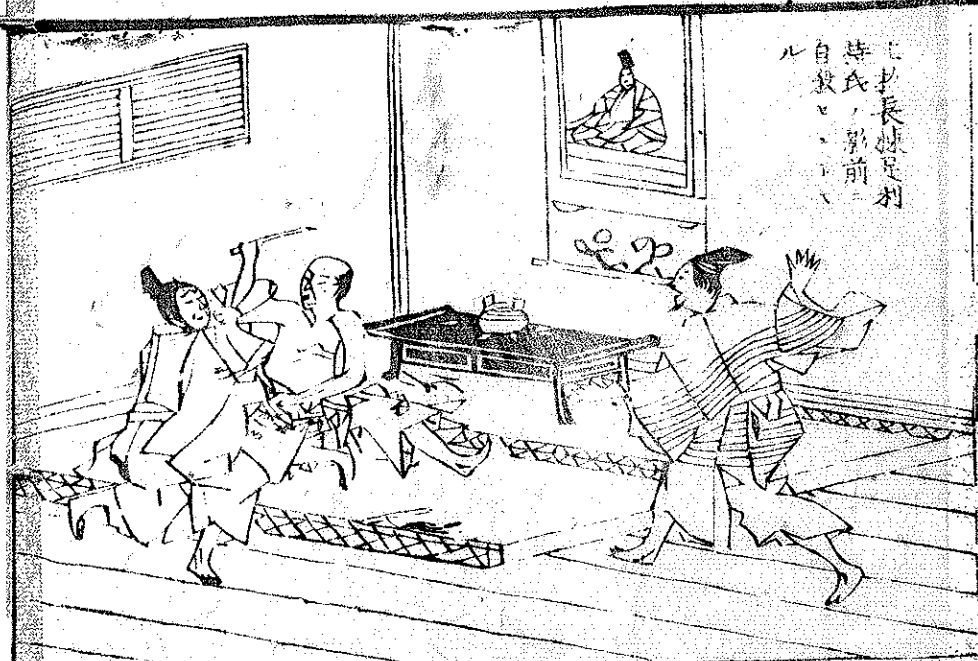
ヲ以テ立ツ、傳ヘテ稱光天皇ニ至リ、崇光院ノ子

孫ハ、退キテ伏見ニ居リ、是ニ至リ出デハ、大統ヲ

受クルコトヲ得タリ、後龜山天皇ノ皇子、小倉宮  
其<sup>名</sup>立ッコトヲ冀ヒテ得ズ、伊勢ニ奔ル、北畠滿  
雅コレヲ奉シテ、兵ヲ舉グ、足利義教、兵ヲ遣ハレ、  
撃チテコレヲ平ゲレヌ、小倉宮ヲ赦シ、嵯峨ニ居  
ラシム、義教、征夷大將軍トナリ、尋テ内大臣ニ任  
ス、○初、義持ノ薨ズル、足利持氏、征夷大將軍タラ  
コトヲ、冀ヒテ得ズ、常ニ義教ヲ罵リテ曰ク、吾  
何ゾ、此ノ還俗將軍ニ、屈セレヤト、其ノ執事、上杉  
憲實、諫レドモ聽カズ、終ニ憲實ヲ殺サンコトヲ  
圖ル、憲實出デ、上野ニ奔リ、コレヲ義教ニ訴ス、

義教、兵ヲ遣ハレテ、憲實ヲ擒ケ、持氏ヲ討チテ、コ  
レヲ敗ル、持氏窮蹙シテ、憲實ト和シ、髮ヲ削リテ、  
永安寺ニ徙ル、憲實、使ヲ京都ニ馳セテ、持氏ノ死  
ヲ、省メンコトヲ請フ、義教聽カズ、是ニ於テ、持氏  
其ノ子義久ト、共ニ自殺ス、基氏ヨリ、是ニ至ルマ  
テ、四世、凡九十年、關東ノ諸將、皆憲實ヲ推シテ、鎌  
倉管領トス、憲實弟清方ヲ、越後ヨリ召シ、其ノ職  
ヲ讓リ、薙髮シテ、長棟ト云フ、後持氏ノ影前ニ詣  
リ、自殺セントス、從者ノタメニ、止メラレテ、果サ  
ズ、既ニシテ、下總ノ人、結城氏朝、義久ノ弟春王、安

上杉長政足利  
氏ノ影前  
自叙  
ル



主ヲ奉ジテ、亂ヲ結城ニ  
作ス、義教、清方ヲレテ、撃  
チテ、コレヲ平ケシム、義  
教ノ弟僧トナリ、義昭ト  
云フ、大覺寺ニ居リ、關東  
亂作ルニ乗ジテ、小倉宮  
ヲ奉レ、以テ兵ヲ舉ゲン  
コトヲ謀ル、事覺レテ、薩  
摩ニ出奔ス、義教、島津忠  
國ヲシテ、コレヲ殺サシ

ム、○義教、赤松滿祐ノ族、貞村ヲ愛シ、滿祐ノ地ヲ  
割キテ、コレニ、與ヘンコトヲ欲ス、滿祐怒リ、義教  
ヲ弑シテ、播磨ニ奔ル、義教ノ子義勝立ツ、生レテ  
八歳、山名持豐等、滿祐ヲ伐ナテ、コレヲ滅ホス、既  
ニシテ、義勝卒ス、弟義政嗣グ、亦生レテ、八歳ナリ、  
○藤原有光、小倉宮ノ子、尊義王ヲ奉ジテ、中興王  
ト稱シ、夜禁中ニ入リテ、神器ヲ奪フ、衛士追撃シ  
テ、劍鏡ヲ獲タリ、有光等、神璽ヲ擁レテ、延暦寺ニ  
據ル、義政兵ヲ遣ハレテ、コレヲ討ツ、尊義王自校  
シテ、有光死ス、餘黨、王ノ子、尊秀王ヲ奉シテ、吉野

ノ北山ニ據ル、後赤松氏ノ遺臣、佯リ降リテ、神璽ヲ奪ヒ、以テ來リ獻ス、○義政、足利持氏ノ季子、永壽王ニ、名ヲ成氏ト賜ヒテ、以テ鎌倉管領トス、關東將士ノ請ニ、由リテナリ、是ニ於テ、上杉憲忠ヲ執事トシ、上杉憲房ヲシテ、コレヲ助ケンム、二人尚幼キヲ以テ、其ノ家人、太田資清ハ、顯房ヲ輔ク、長尾景仲ハ、憲忠ヲ輔ク、憲忠ハ、長棟ノ子ナリ、長棟嘗テ持氏ヲ殺スヲ以テ、成氏ヲ避ケテ、出奔ス、資清、景仲、長棟ノ舊制ニ從ハンコトヲ欲ス、成氏聽カズ、常ニ、上杉氏ヲ除カンコトヲ圖ル、資清、景仲怒リテ、成氏ヲ襲ヒ、迭ニ勝敗アリ、義政使ヲシテ、コレヲ和解セシム、既ニレテ、成氏兵ヲ起シ、憲忠顯房ヲ代チテコレヲ殺ス、義政今川範忠ヲシテ、成氏ヲ討タシム、成氏敗レテ、下總ノ古河ニ奔ル、憲忠ノ弟房顯、鎌倉ニ入リテ、管領トナリ、關東大ニ亂ル、是ニ於ニ、義政弟政知ヲシテ、伊豆ニ居リ、以テ、コレヲ鎮メシム、稱シテ、堀越所ト云フ

○畠山持國子無シ、弟持富ヲ嗣トシ、氏ニシテ子義就ヲ生ズ、遂ニ以テ嗣トシ、隅田某名關久、佐ヲ渡ト稱スレテ、傳タラシム、家臣等、其ト隙アル者アリ、持富



ノ子政長ノ立テ、嗣トナサンコトヲ欲ス、衆多  
クコレニ異ル、細川勝元、政長ヲ助ク、政長出デ、  
勝元ニ依ル、勝元、名持豊ト、姻アルヲ以テ、持豊  
モ亦、政長ニ黨ス、政長ノ從者皆、持國ノ家ヲ去リ  
テ、持豊ノ家ニ匿ル、義就乃、兵ヲ集メテ、政長ヲ攻  
メントス、京都騒然タリ、義政諸將ニ令シテ、室町  
ノ第ヲ衛ラレム、勝元、持豊至ラズ、政長火ヲ近邑  
ニ放テテ、持國ノ家ヲ攻ム、持國難ヲ、從弟義忠ノ  
家ニ避ク、義就、自其ノ家ヲ焼キテ、伊賀・奔ル、政  
長ノ黨、兵三百ヲ遣ハレテ、持國ヲ迎ヘシム、勝元

遂ニ政長ヲ、嗣トセレコトヲ請フ、義政コレヲ許  
ス、然レドモ、勝元、持豊ノ、政長ニ黨シテ、争端ニ、開  
ケルコトヲ惡ム、勝元、自安ゼズ、罪ヲ、其ノ家臣ニ  
歸シテ、コレヲ斬リ、持豊ハ、上書シテ、罪ヲ謝シ、退  
キテ、但馬ニ居リ、政長、兵ヲ率テ、義就ヲ、河内ニ攻  
メテ、克ク、義政使ヲシテ、コレヲ和解セシム、乃  
義就、政長共ニ、京都ニ入ル、義就、後義政ノ旨ニ、忤  
ヒテ、逐ハレ、又河内ニ奔ル、勝元、兵ヲ遣ハシテ、政  
長ヲ援ケ、以テ、其ノ城ヲ拔カシム、義就退キテ、岳  
山ニ據リ、累年下ラス、既ニレテ、紀伊ニ逃レ、又大

和ニ入ル○天皇、在位三

十六年ニシテ、位ヲ成仁

親王後土御門天皇ニ譲ル文明

二年、十二月崩ズ、年五十

三

第百三代、後土御門天皇

ハ、後花園天皇ノ子ナリ

○大將軍義政、職ニ在ル

コト久シク頗ル其ノ務ニ

倦ム時ニ弟義尋僧トナ

リテ淨土寺ニ在リ、因リテ養ヒテ子トセントス

義尋固辭ス、義政曰ク、吾後子アラバ必僧トセン

決シテ此ノ誓ヲ渝ヘジト義尋、乃髪ヲ蓄ヘテ、名

ヲ義視ト改ム、細川勝元、管領タリ、既ニレテ子義

尚生ル、其ノ母コレヲ僧トセンコトヲ欲セズ、但

勝元ハ、義視ヲ輔クルヲ以テ、其ノ約ヲ渝ヘンコ

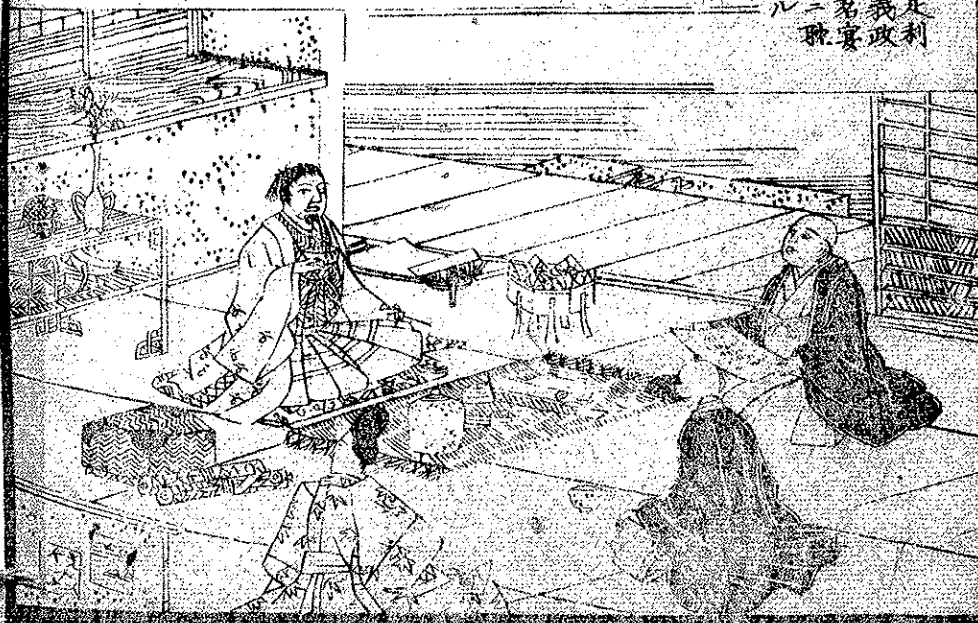
トヲ憚リ、諸將ノ勝元ト抗スベキ者ヲ求メテ密

ニコレヲ山名宗全ニ託ス、宗全ハ、即持豐ナリ、初

宗全女ヲ以テ、勝元ニ妻レテ子無シ、勝元因リテ、

宗全ノ子、是豐ヲ養ヒテ、嗣トス、既ニレテ子ヲ生

足利義政  
若宴ル



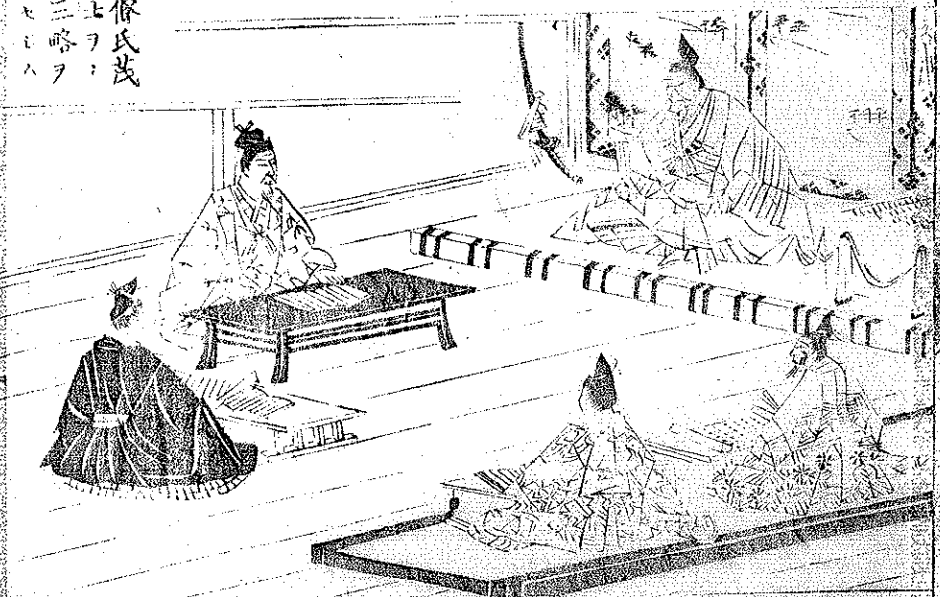
ズ、乃是豐ヲ廢ス、宗全懌バズレテ漸隙アリ、故ニ其ノ託ヲ受ケテ、辭セズ、畠山義就ノ勇ニ勝元ト相仇スルコトヲ知り、義政ニ請ヒテ京都ニ還サレメ、畠山政長ハ管領ヲ罷ム、政長憤恚シテ怨言ヲ出ダス、宗全、コレヲ聞キテ、義就以下、三十餘將ト、政長ヲシテ、本第ヲ避ケシメンコトヲ請ヒテ曰ク、勝元、政長ヲ庇ス、異圖アルニ似タリト、義政因リテ、使ヲ遣ハシテ、勝元ニ問ハシム、勝元答ヘズ、遂ニ政長ト、兵ヲ聚メテ、自備ス、宗全等モ亦兵ヲ名レテ、室町ノ第ヲ守ル、義政令シテ曰ク、

政長、義就各手兵ヲ以テ相決セヨ、諸將コレヲ援クルコト勿レト、政長乃其ノ家ヲ焚キテ、御靈林ニ陣ス、宗全潛ニ、義就ヲ援ケテコレヲ撃ツ、政長敗走ス、世人、勝元ノ政長ヲ援ケザルコトヲ嗤リ、以テ怯ナリトス、勝元コレヲ慚ヂ、宗全ノ兵散ズルヲ覗ヒテ、密ニ、兵ヲ諸國ニ徵ス、其ノ兵、凡十六萬餘、宗全、コレヲ聞キテ、亦兵ヲ諸國ニ徵ス、凡十一萬餘、勝元ハ東ニ陣シ、宗全ハ西ニ陣シ、相戦ヒテ、更勝敗アリ、第宅文籍皆兵燹ニ罹ル、是ヲ應仁ノ亂ト云フ、應仁ハ、當時ノ年號ナリ、○大將軍義

政致仕ス、子義尚嗣グ、畠山政長管領タルト、七  
日ニシテ辭ス、畠山義統コレニ代ル、是ヨリ北、義  
祖出デ、伊勢ニ在リ、義政書ヲ以テコレヲ名レ、  
勝元モ、其ノ還ランコトヲ請フ、義視京都ニ歸ル、  
會飛語アリ、勝元發立フ圖ルト是ニ於テ、義視又  
出デ、延暦寺ニ召入宗全迎ハテ、己ノ陣中ニ置  
ク、既ニシテ宗全勝元ト皆卒ス、義視、美濃ニ奔リ  
テ、土岐氏ニ頼ル、後義尚、名ヲ義熙ト改ム、薨レテ  
子無シ、義政、乃義視ヲ、美濃ヨリ、召還シ、其ノ子、義  
村ヲ養ヒテ、嗣トス、義村、名ヲ義植ト改ム、尋テ義

政薨ス、義政致仕セリヨリ、使ヲ明ニ遣ハシテ、銀  
錢ヲ求メ、又、銀閣ヲ東山ニ營ミ、以テ金閣ニ擬シ、  
徙リテコレニ居リ、東山殿ト稱ス、義視モ亦、相繼  
ギテ薨ズ、義植、征夷大將軍ニ任シ、畠山政長ト、兵  
ヲ率イテ、畠山義豐ヲ、河内ニ攻ム、義豐ハ、義就ノ  
子ナリ、細川政元、政長ト權ヲ爭ヒ、足利政知ノ子  
義澄ノ、關東ヨリ迎ヘテ、コレヲ立テ、義豐ヲ援ケ  
テ、義植、政長ヲ攻ム、政長自殺ス、義植ヲ執ヘテ、コ  
レヲ、京都ニ幽ス、後、義植越前ニ奔リテ、朝倉氏ニ  
依リ、兵ヲ舉ゲテ、近江ニ入ル、義澄逆撃シテ、コレ

北條氏茂  
儒士ヲ  
テ三略ヲ  
請ヒテハ



ヲ破ル、義植、又周防ニ奔  
ル、是ノ時ニ當リテ、政知  
既ニ其ノ子茶々丸ニ弑  
セラル、今川氏親ノ部將、  
伊勢氏茂、茶々丸ヲ討テ  
テ、伊豆ヲ略シ、氏ヲ北條  
ト改ム、○天皇、在位三十  
六年ニシテ、明應九年、九  
月崩ズ、年五十九、

第一百四代、後柏原天皇ハ、

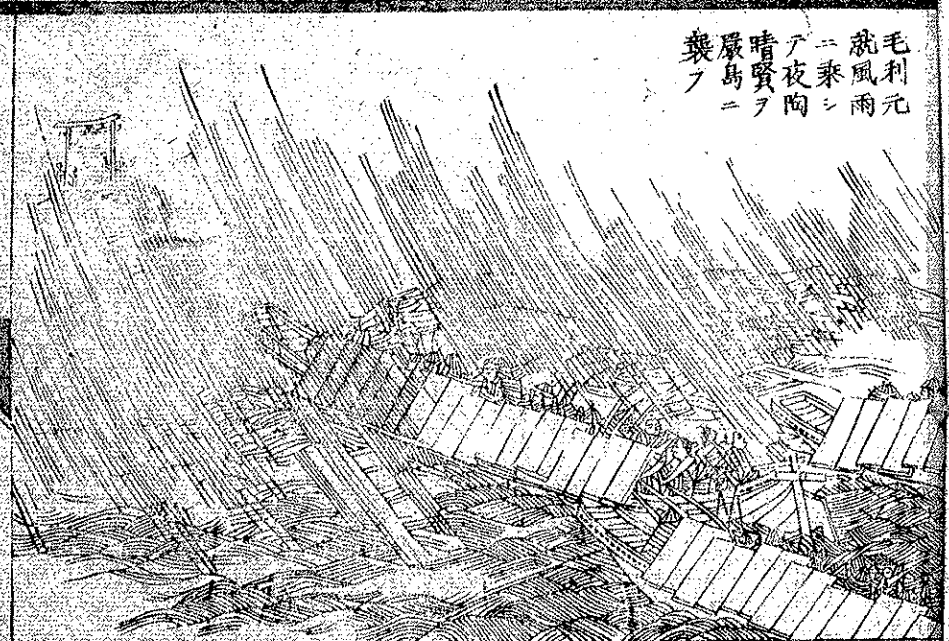
後土御門天皇ノ子ナリ、踐祚ノ後二十一年、本願  
寺ノ僧、資ヲ獻ズ、因リテ、始メテ、即位ノ禮ヲ行フ  
コトヲ得タリ、○前將軍義植ノ官爵ヲ罷ム、○細  
川政元、其ノ臣、香西元近ニ弑セラル、初、政元子無  
シ、藤原政基ノ子、澄之ヲ養ヒ、又、族政春ノ子、高國  
ヲ養ス、皆意ニ稱ハズ、更ニ、族義春ノ子、澄元ヲ養  
ヒ、コレヲ其ノ臣、三好之長ニ付ス、元近謀リテ、謂  
ヘタク、澄元立タバ、之長權ヲ專ニセシト、因リテ、  
政元ヲ弑ス、之長、阿波ノ兵ヲ以テ、澄元ヲ奉ル、ス  
元近ヲ討ス、義澄乃、澄元ヲ管領トス、○大内義興、

義植ヲ奉ジ細川高國ト大舉シテ京都ニ入ル義澄近江ニ奔リ澄元阿波ニ奔ル是ニ於テ義植ノ復シ義澄ノ官爵ヲ削リ義興ヲ以テ管領トス後義澄近江ニ薨ズ○細川政賢兵ヲ舉ゲテ京都ニ入ル義興義植ヲ奉ジテコレヲ丹波ニ避ケ又還リテ政賢ヲ討ズ既ニシテ義興國ニ就ク高國管領タリ澄元四國ノ兵ヲ率ヰテ攝津ノ兵庫ニ至リ之長ハ久米川ニ陣ス高國コレト戦ヒテ克タズ近江ニ奔ル之長遂ニ長驅シテ京都ニ入ル義植モ亦近江ニ奔ル尋テ高國兵ヲ發シテ京都ヲ

攻ム澄元阿波ニ奔ル之長其ノ二子ト共ニ自殺ス後澄元阿波ニ卒ス高國漸義植ト隙アリ義植出デ淡路ニ奔ル高國乃義澄ノ子義晴ヲ迎ヘテコレヲ立ツ後義植モ亦阿波ニ薨ズ○天皇在位二十六年ニシテ大永六年四月崩ズ年六十三第百五代後奈良天皇ハ後柏原天皇ノ子ナリ踐祚ノ後十年大内義隆貢ヲ奉ル因リテ始メニ即位ノ禮ヲ行ス○細川高國ノ臣柳本賢治兵ヲ丹波ニ起シテ京都ヲ侵入高國コレヲ拒ギテ利アラズ義晴ヲ奉ジテ近江ニ奔ル三好之長ノ孫元



長、細川晴元ヲシテ義晴ノ弟、義維ヲ奉<sub>セ</sub>シ、人阿  
 波ヨリ、和泉ノ堺ニ至ル、晴元ハ、澄元ノ子ナリ、既  
 ニシテ、越前、守護、朝倉孝景、近江、守護、六角高頼等、  
 高國ト共ニ、義晴ヲ京都ニ納<sub>レ</sub>、晴元ト和<sub>テ</sub>議ス、  
 賢治欲<sub>ヒ</sub>ス、和又破<sub>ル</sub>、義晴ハ、近江ニ奔<sub>リ</sub>、高國ハ、  
 伊勢ニ奔<sub>ル</sub>、尋テ、高國賢治皆死ス、晴元、元長ヲ殺  
 シテ、義維ヲ幽シ、義晴ヲ京都ニ納<sub>ル</sub>、義晴乃、晴元  
 ヲ管領トス、後晴元、義晴ニ逼<sub>リ</sub>テ、職ヲ其ノ子、義  
 輝ニ讓<sub>テ</sub>シム、元長ノ子、長慶、兵ヲ率<sub>テ</sub>、京都ニ  
 入<sub>ル</sub>、晴元因<sub>リ</sub>、義晴、義輝ヲ挾<sub>ミ</sub>、近江ニ奔<sub>ル</sub>、義



毛利元就  
 就風雨  
 ニ乘シ  
 テ夜陶  
 晴賢ヲ  
 嚴島ニ  
 襲フ

晴遂ニ、穴太山中ニ薨<sub>ズ</sub>、  
 義輝、長慶ト和<sub>レ</sub>テ又京  
 都ニ復<sub>ル</sub>、○應仁以降、足  
 利氏ノ政、今行ハ<sub>レ</sub>ス、北  
 條氏茂ノ孫氏康、既ニ山  
 内、扇谷ノ兩上<sub>ヲ</sub>滅<sub>ス</sub>、  
 シ、關東ニ據<sub>リ</sub>、武田晴信  
 ハ、甲斐、信濃ヲ略<sub>シ</sub>、上杉  
 輝虎ハ、三越ヲ取<sub>リ</sub>、毛利  
 元就ハ、山陰、山陽ノ併<sub>セ</sub>、

四國ニハ、長曾我部氏アリ九州ニハ、大友島津及  
龍造寺ノ三氏アリ、其ノ他豪傑、各方ニ割據シテ、  
戰爭止ム時無ク、生民塗炭ニ陷ルガ如シ、○天皇  
在位三十一年ニシテ、弘治三年九月崩ズ、年六十  
二、

第百六代、正親町天皇ハ、後奈良天皇ノ子ナリ、踐  
阼ノ後三年、毛利元就貢ヲ奉ル、因リテ始メテ、即  
位ノ禮ヲ行フ、○今川義元、駿河ヨリ兵ヲ率井テ  
尾張ヲ侵入、織田信長、コレヲ桶峽間ニ破リ、義元  
ヲ斬ル、○上杉輝虎、信濃ニ入り、武田晴信ト大ニ、

河中島ニ戰フ、○天皇使ヲ尾張ニ遣ハシテ、密  
ヲ信長ニ諭ス、尋テ、松永久秀、其ノ主三好長慶ノ  
子義長ヲ鳩殺シ、又將軍義輝ヲ弑ス、義輝ノ弟、僧  
覺慶、近江ニ奔リテ、名ヲ義昭ト改メ、往キテ信長  
ニ依ル、信長、乃、京都ニ入ル、後、義昭ヲ廢シテ、三好  
氏ヲ滅シ、近畿略平グ、是ニ於テ、皇宮ヲ造營シ、地  
租ヲ以テ、大内ニ奉ジ、絶エタルヲ繼ギ、廢レタル  
ヲ興シ、又徭役ヲ弛ブ、既ニシテ、其ノ臣、羽柴秀吉  
ヲ山陽道ニ遣ハシテ、毛利輝元ヲ攻メシム、輝元  
ハ元就ノ孫ナリ、尋テ、秀吉、信長ノ自來リ代タシ

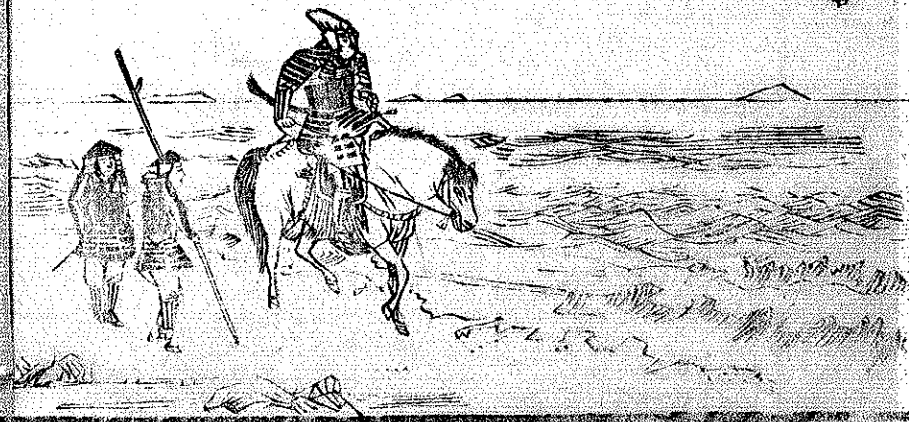
コトヲ請フ、信長乃其ノ子信忠ト進ミテ京都ニ  
入り、其ノ臣明智光秀ニ弑セラル、信忠モ亦コト  
ニ死ス、秀吉變ヲ聞キテ、輝元ト和シ、光秀ヲ山崎  
ニ撃チテ、コレヲ誅ス、柴田勝家、瀧川一益等秀吉  
ヲ除カンコトヲ圖ル、秀吉與ニ戰ヒテ、皆コレニ  
克チ、淡路城ヲ大坂ニ築キテ居リ、長曾我部氏ヲ  
南海ニ降ダシ、上杉氏ト北越ニ和ス、○大皇在位  
二十九年ニシテ、位ヲ周仁親王後陽成天皇ニ讓ル、文  
錄二年正月崩ズ、年七十五、

第百七代、後陽成天皇ハ、正親町天皇ノ孫ニシテ、

父ハ、陽光院贈太上天皇誠仁親王ナリ、○秀吉ヲ太政  
大臣トス、是ヨリ先、秀吉既ニ關白ニ拜セラレ、氏  
ヲ豐臣ト稱ス、是ニ至リ、大舉レテ西征ス、島津義  
久、出デ、降ル、又北條氏政ヲ相摸ニ討チテ、コレ  
ヲ破ル、奥羽ノ諸豪風ヲ望ミテ來附ス、○應仁以  
降、海内分裂シ、干戈止ム時無カリシ者、是ニ至リ  
ニ、始メテ、一ニ歸セリ、○秀吉既ニ海内ヲ平ダ、更  
ニ、武ヲ海外ニ輝サンコトヲ欲ス、奏レ請ヒテ、内  
大臣秀次ヲ關白トシ、自太閤ト稱ス、秀次ハ、其ノ  
甥ナリ、秀吉出デ、肥前ノ名護屋ニ陣シ、浮田秀

家、加藤清正、小西行長等  
 シレテ、朝鮮ヲ伐タシム、  
 朝鮮王李<sub>王</sub>、義州ニ出奔  
 ス、明主朱<sub>明</sub>、勅<sub>勅</sub>兵ヲ發シ  
 テ朝鮮ヲ援ク、撃テコ  
 レヲ破ル、會、秀吉ノ子秀  
 賴生ル、因リテ大坂ニ還  
 ル、時ニ秀次、淫縱度無シ  
 秀吉怒リテ、秀次ヲ高野  
 山ニ逐ヒ、尋テ、コレヲ殺

加藤清正瓦良哈  
 ヨリ海ヲ隔テ、  
 遠山ヲ望ム



ス、是ノ時ニ當リテ、明主既ニ和ヲ講シ、使ヲレ  
 テ來ラシム、秀吉其ノ書辭ノ無禮ナルヲ怒リ、コ  
 レヲ逐ヒ還シ、再兵ヲ發シ、朝鮮ヲ攻メ、大ニコ  
 レヲ敗ル、既ニシテ秀吉薨ス、時ニ年六十三、遺命  
 シテ、諸將ヲ名シ還サシム、詔シテ秀吉ニ豊國大  
 明神ノ號ヲ贈ル、○徳川家康、前田利家等秀吉ノ  
 遺囑ヲ承ケテ秀賴ヲ輔シ、幾ニ無クシテ、利家ノ  
 ス石田三成密ニ謀ス、上杉景勝ニ通シテ、東征ス、  
 除カントス、景勝朝セズ、家康兵ヲ率イテ、東征ス、  
 三成乃、西國ノ諸侯ヲ召ス、家康コレヲ聞キテ、諸

關原戰役川  
三山、繪



將ト下野ヨリ西上シ、三  
成及浮田秀家、小西行長、  
大谷吉隆、増田長盛等ト  
關原ニ戦ヒ、大ニコレヲ  
敗リ、三成長盛等ヲ捕斬  
シ、旬月ヲ出テスシテ、國  
内悉皆徳川氏ニ服ス。詔  
シテ、家康又征夷大將軍  
ニ任ス。既ニシテ、家康職  
ヲ辭ス。因リテ、其ノ子秀

忠ヲ、大將軍トス。秀忠、江戸城ニ居リ、家康ハ、駿河  
ニ老ス。○島津家久、請ヒテ、琉球ヲ伐ス。其ノ土尚  
寧、及太子、大臣、數十人ヲ擒ニス。議シテ、琉球ヲ家  
久ニ賜フ。○天皇、在位二十五年ニシテ、仙ヲ、政仁  
親王後水尾ニ讓ハ、元和三年八月崩ズ、年四十七。  
第百八代後水尾、天皇ハ、後陽成天皇ノ子ナリ。○  
大野治長等、秀賴ニ勸メテ、兵ヲ舉ケシム。家康、大  
舉レテ、大坂ヲ攻ム。城陷リテ、秀賴自殺ス。年二十  
三、豐臣氏、是ニ至リテ亡ス。家康、新式十七條ヲ頒  
ツコレヲ、元和今ト云フ、元和ハ、當時ノ年號ナリ、



朝廷就キ大康ヲ太政大臣ニ拜ス、既ニシテ、家  
康薨ズ、年七十五、久能山ニ葬ル、勅シテ、東照大權  
現ト號ス、後秀忠遺命ヲ以テ日光山ニ改メ葬リ  
新廟ヲ建ツ、詔シテ、正一位ヲ贈ル、○秀忠職ヲ辭  
ス、家光ヲ征夷大將軍ニ任ズ、家光ハ秀忠ノ子ナ  
リ、○天皇、在位十八年ニシテ、位ヲ興子内親王明正  
天皇ニ讓ル、延寶八年、八月崩ズ、年八十五、  
第百九代、明正天皇ハ、後小尾天皇ノ女ナリ、踐阼  
ノ時、甫チ八歳、稱徳天皇以後、皇女ノ登極スル  
者無シ、天皇、母ハ、秀忠ノ女タルヲ以テ、特ニ大統

ヲ承ク、○賊、亂ヲ島原ニ作ス、松平信綱、水野勝成  
等ヲシテ、伐テ、コレヲ平ゲシム、○天皇、在位、十  
四年ニシテ、位ヲ皇弟紹仁親王後光明  
天皇ニ讓ル、元  
祿九年十一月崩ズ、年七十四、

第百十代、後光明天皇ハ、後小尾天皇ノ子ナリ、○  
家光薨ス、子家綱繼ギテ、征夷大將軍ニ任ズ、○是  
ノ時、由井正雪、丸橋成純等、亂ヲ作サンコトヲ禁  
リ、事覺レテ、誅ニ伏ス、○皇宮火久、家綱ニ救シテ  
コレヲ造ラシム、○天皇資性英邁ニシテ、復古ニ  
志アリ、不幸ニシテ、其ノ事ヲ果サズ、在位十一年



ニレテ、貞應三年、九月崩ズ、年二十二

第百十一代、後西院天皇ハ後水尾天皇ノ子ナリ

○量制ヲ改ム○江戸大ニ火ク、尋テ皇宮災アリ

○天皇、在位八年ニレテ、位ヲ、皇弟識仁親王靈元天皇

ニ譲ル、貞享二年、二月崩ズ、年四十九

第百十二代、靈元天皇ハ、後水尾天皇ノ子ナリ、○

絹布ノ長ヲ定メテ、二丈六尺ヲ一端トス又、度人

ノ大刀ヲ佩ルコトヲ禁ズ○將軍家綱薨ズ、弟綱

吉繼ギテ、征夷大將軍ニ任ズ、○皇子朝仁ヲ立テ

ハ、皇太子トス、後小松天皇以來、立坊ノ典ヲ闕ク

ト十三世、是ニ至リテ、コレヲ修ス、○陰陽博士、

安倍安福ニ詔レテ、宣明曆ヲ廢シテ、授時曆ニ據

ラシム、名ヅクテ貞享曆トイフ、年號ヲ以テ、曆法

ニ名ヅクルコト、此ヨリ始マル、清和天皇、貞觀中、

大衍曆ヲ廢シテ、宣明曆ヲ行ヒシヨリ、此ニ至ル

マテ、八百二十餘年ナリ、○朝鮮琉球、二國通商ノ

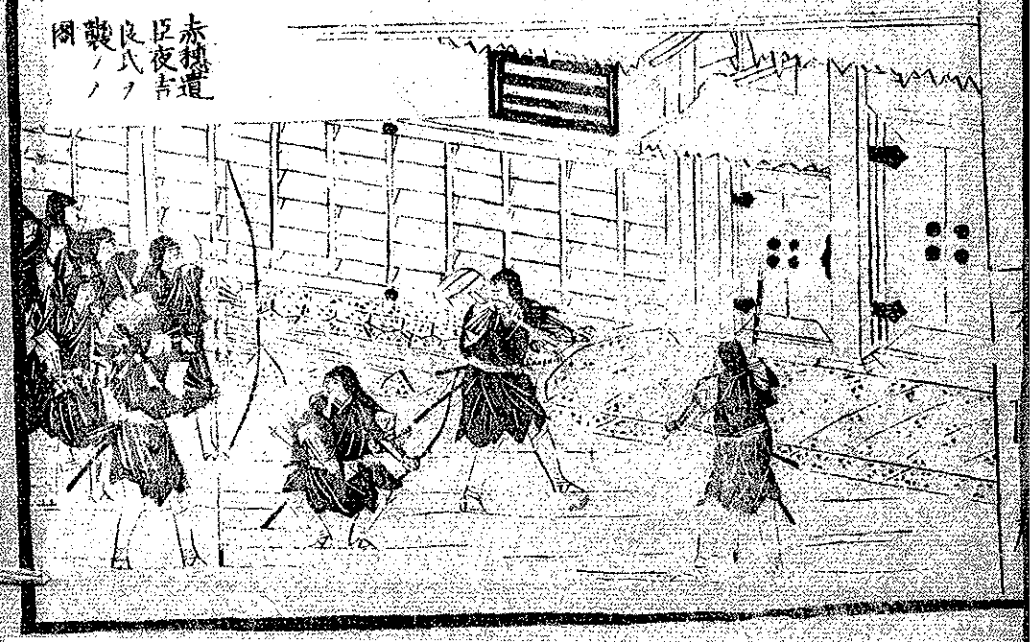
法ヲ定ム、○天皇、在位二十四年ニシテ、位ヲ、皇太

子ニ譲ル、享保十七年、八月崩ズ、年七十九、

第百十三代、東山天皇ハ靈元天皇ノ子ナリ、○綱

吉學校ヲ、江戸ノ神田ニ建テ、孔廟ヲ造リ、聖堂ト

稱ス。○播磨赤穂ノ城主、  
 淺野長矩、高家吉良義英  
 ヲ城中ニ傷ク、坐セラレ  
 テ、死ヲ賜フ、長矩ノ遺臣、  
 大石良雄等、義英ノ弟ヲ  
 襲ヒ、コレヲ殺シ、幕府ニ  
 自首ス、其ノ徒四十六人  
 皆死ヲ賜フ、○綱吉薨ズ、  
 家宣繼ギテ、征夷大將軍  
 ニ任ズ、○天皇、在位二十



赤穂  
 遺臣  
 良吉  
 氏ノ  
 襲メ  
 綱吉

三年ニシテ、位ヲ、皇太子ニ譲リ、是ノ歲崩ズ、時ニ  
 寶永六年ナリ、年三十五、  
 第百十四代、中御門天皇ハ、東山天皇ノ子ナリ、  
 家宣薨ズ、家繼繼ギテ、征夷大將軍ニ任ズ、既ニレ  
 テ、家繼モ亦薨ズ、吉宗大將軍タリ、吉宗節儉ヲ行  
 ヒ、言路ヲ開キ、賢良ヲ舉グ、一時其ノ治ヲ稱ス、○  
 中納言源光圀、大日本史ヲ撰ス、○天皇、在位二十  
 六年ニシテ、位ヲ、皇太子ニ譲ル、元文二年四月崩  
 ズ、年三十七、  
 第百十五代、櫻町天皇ハ、中御門天皇ノ子ナリ、○

阿蘭陀國貿易ノ歲額ヲ定ム、○吉宗職ヲ辭ス、子家重繼ギテ、征夷大將軍ニ任ズ、○天皇、在位十二年ニシテ、位ヲ皇太子ニ讓ル、寬延三年崩ス、年二十一、

第百十六代桃園天皇ハ、櫻町天皇ノ子ナリ、即位ノ時、年甫メテ七歲、○家重職ヲ辭ス、家治繼ギテ、大將軍ニ任ズ、○天皇、在位十五年ニシテ、寶曆十二年、七月崩ズ、年二十二、

第百十七代、後櫻町天皇ハ、櫻町天皇ノ女ニシテ、桃園天皇ノ姪ナリ、○天皇、在位八年、位ヲ皇太子

ニ讓ル、文化十年、閏十一月崩ス、年七十四、

第百十八代、後桃園天皇ハ、桃園天皇ノ子ナリ、○天皇、在位九年ニシテ、安永八年、十一月崩ス、年二十三、

第百十九代、光格天皇ハ、東山天皇ノ曾孫ニシテ、自在王院宮典ニ親モノ子ナリ、○家治薨ズ、家齊ヲ以テ、征夷大將軍トス、○皇宮災アリ、家齊、天下ノ諸侯ニ課レテ、コレヲ造營セシム、其ノ制、稍古ニ復ス、○蝦夷亂ヲ作ス、尋テ平グ、始メテ、成卒ヲ箱館ニ置ク、○寛政曆ヲ頒ナ行ス、○天皇、在位三十七

年ニシテ、位ヲ皇太子ニ讓ル、後天保十一年十一月崩ズ、年七十、天皇學ヲ好ミテ、典故ニ精シノ諸祭典ヲ復シ、廢官ヲ興ス、

第百二十代、仁孝天皇ハ、光格天皇ノ子ナリ、○大將軍源家齊ヲ以テ、左大臣ニ任ジ、從一位ニ叙ス、世子家慶ハ、内大臣ニ任ジ、正二位ニ叙セラリ、鎌倉以來、大將軍ノ世子、大臣ニ任スルコト、此ヲ始メトス、既ニシテ、家齊又太政大臣ニ任ジ、家慶ハ、從一位ニ叙セラリ、是ニ至リテ、家齊職ヲ辭シ、家慶繼ギテ、征夷大將軍ニ任ズ、○胥吏大鹽平八郎、

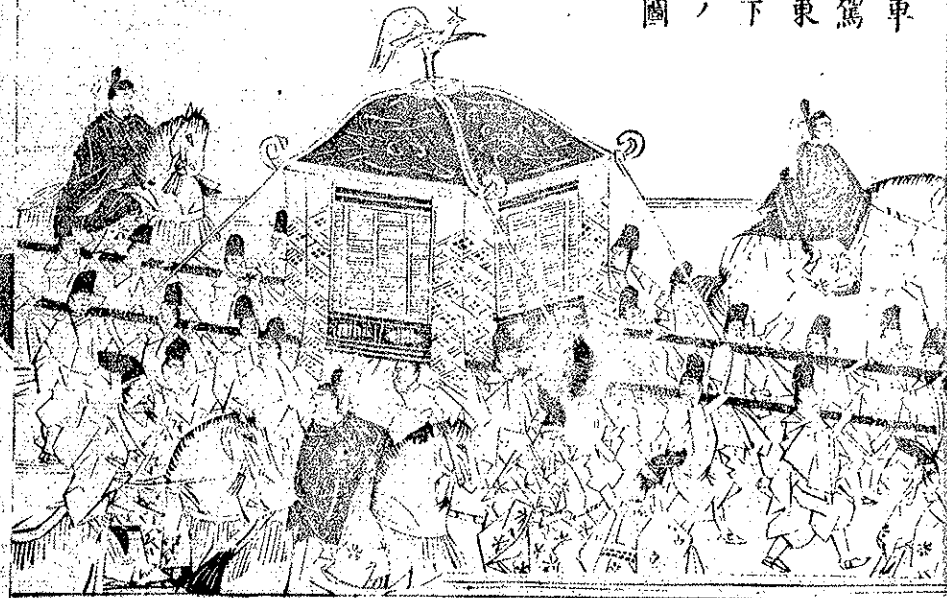
亂ヲ大坂ニ作ス、尋テ平グ、○家慶諸緇紳ノ爲ニ、學舎ヲ建春門ノ前ニ建ツ、天皇コレヲ嘉ミシ、名ヲ學習院ト賜ス、○天皇在位三十年ニシテ、弘化三年、二月崩ズ、年四十七、○天皇孝謹ニシテ、學ヲ好ミ、光格天皇崩スルニ及ヒテ、久シク廢セシ、謚ヲ法ヲ復ス、

第百二十一代、孝明天皇ハ、仁孝天皇ノ子ナリ、○米利堅國、使ヲ遣ハレテ、通信貿易ヲ請フ、會、家慶病ニ嬰リテ薨ス、家定ヲ以テ、征夷大將軍ニ任ズ、家定先貿易ノ請ヲ許シ、然ル後ニ、コレヲ奏ス、魯

西亞、英吉利、佛蘭西、阿蘭ノ各國使ヲ遣ハシテ貿易ヲ求ム、遂ニ五國ノ條約成ル、既ニシテ家定薨ス、家茂繼ギテ征夷大將軍ニ任ズ、幾モ無ク家茂薨ス、慶喜ヲシテ職ヲ襲ガシメ、征夷大將軍ニ任ズ、天皇在位二十年ニシテ、慶應二年十二月崩ス、年三十六、

第百二十二代、今上天皇ハ、孝明天皇ノ子ナリ、○大將軍慶喜職ヲ辭ス、是ヨリ天皇萬機ヲ親裁シ、封建ヲ改メテ、郡縣ト爲ス、江戸ヲ東京ト稱シ、以テ皇居トス、源賴朝府ヲ鎌倉ニ開キモヨリ、明治

車駕東下ノ圖



元年戊辰ニ至ルマデ凡  
六百八十三年ニシテ王  
政復古ス、神武天皇元年  
辛酉ヨリ、今明治八年ニ  
至ルマデ凡二千五百三  
十五年ナリ、

日本略史下卷終